

市民学習センターを守れ！

「学びと交流の場」存続願い声あがる利用者

「市民の学びの場・出会いと交流の場・生きがいの場を守ろう！」「採算や効率だけで廃止を決めないで！」。橋下市長が進める「市政改革プラン」（昨年七月末に決定）で来春に廃止されることになっている施設の二つ、弁天町市民学習センター（弁天二丁目）の利用者らが、存続を願って声を上げ続けています。

「採算一色の市政改革おかしい」「目に見えぬ効果こそ」

◆94%の反対を無視

この市政改革プランの大半は「老人福祉センター」を削減する「老人憩いの家への運営助成を削減する」「ネットワーク推進員への補助を廃止

する」「食事サービス（ふれあい型）を削減する」

「社会福祉協議会への交付金を削減する」一な

どめつゆの分野の施設やサービスを廃止・削減

するもので、当然ながら市民からは轟々たる反

対の声が起り、昨年五月のパブリックコメン

ト（市民からの意見公募）では九四割が反対意

見でした。しかし同市長は「パブリックコメン

トに政策が左右されたら大変なことになる」昨

年八月二十一日」といった態度で強行姿勢を変えず、市会議員多数の賛成もあって、プランは決定されてしまっていました。

◆「ラスト高を埋田」

決定されたプランのうち、井太町市民学習センターについては「平成二十五年までは現在の指定管理費制度のままとし、二十六年度に廃止する」となっています。因みにこの決定では、市内の生涯学習センター・市民学習センター五館のうち弁天・難波・城北の三センターの「廃止」が争がっていますが、その理由は「賃借料など」「コストが高いため」となっており、大阪市はこの三館の廃止によりして「三億四百万円の削減効果」を見込んでいる。

◆「反対派を市長に埋田」

こうした市の態度に対して、同センター利用者らは回覧の「素案」(昨年五月に発表)段階から「素晴し」の施設をなるべく「こつ」と継続入力をかわせました。パブリックコメントでは「市民学習センター廃止」に九八割が「反対」でしたが、「それだけでは弱い。人に任せず、自分たちが積極的に声を」と同センター

継続を求める署名を昨年八月末から一カ月足らずで三千筆以上集め、市長に提出するなどの活動を続けてきました。

◆風向き変わってきた？

この十月一日には同センター利用グループによる月例の部屋予約抽選会が行なわれ、約六十グループが参加。冒頭のあいさつで菱岡省所長は、九月の大阪府教育委員会でも委員会と同センターなどの廃止案が「継続審議」となったことを報告。「こつこつ学びの場をなくしたらアカン」という市民の皆さんの声が反映されたようです。また予断は許しませんが、風向きが少し変わ



→井太町市民学習センターは様々な学びの場となってきた(上は開講、下は茶会)

わってきたようにも思います。いずれにしても私たちスタッフは引き続きこのセンターの充実・発展に努め、二十周年記念誌の発行、二十周年イベントの開催、来年三月の『春のセンターまつり』も実施しますので、これまでと同様の利用をお願いします」と呼びかけました。

◆生きがいの場をいかに

ハングル(韓国語) 教室を代表して抽選会に来ていた野間田充枝さん(五二)「南市岡在住」は「私たちの教室は昼と夜に分かれてそれぞれ月一回ずつ開かれています。在日二世の教職経験者の女性がとても分かりやすく教えて下さり、皆さんとてもいい雰囲気です。こんな雰囲気の場合はほかにあるのかわかりませんが、このセンターは、このセンターでは色々な年齢の方が色々な活動をされており、交通の便も良く、規模も大きく、設備も立派なので、もしなくなったら皆さんは行くところがない。特に利用者には高齢者が多く、生きがいを求めている余生を送りたい」と通われている方もおられ、そういった芽が摘まれ、やる気が失われて心身の健康に影響が出るのはとても悲

「いいです。家賃の高さなど採算面が理由だと
言われると難しいですが、何とか残して頂きた
い願っています」と話していました。

◆心身の健康への場

「この他にも利用者からは次のような声が聞か
れました。

「このセンターで十数年活動しています。交
通の便がいただけでなく、手を使ったり頭を使
ったり、心身の健康しぐりごと交流の場になっ
ていますので、それが無くなるのは残念でなりま
せん。昔々な感じで存続を訴えてきましたが、
まだどうなるか分からず、募集をしようするかな
ど段取りもまだ、困っています」(スラソンドグ
ラフ教室の代表を務める女性)

「市外の人も同じように利用できたり、市の
外郭団体に教室割の当てが優先されたらといっ
た運営面での気になる面はあり、また無駄な施
設を縮小するよう市の方向性は分からなくも
ありませんが、その一方で、市民の憩いの場と
して続いてきた施設の廃止を、採算を主な理由に
して決めるのはどうかと思います」(写真クラブ
の代表を務める此花区在住の六十一歳男性)

←井大町市民学習センターは様々な発表の場と
なってきた。上はフラダンス、下は「エルフ



「十五〜六人が月一回撮影会を行ない、その
品評会をここでもやっています。色々な感想や意
見を言うのはとても楽しく、スタッフの方
も親切です。もう十年ほど続けていますが、も
しなくなったら他を探さなくてはならず、困り
ます。なくなってしまうと」(写真クラブ
の代表を務める八尾市在住の七十一歳男性)

◆エルフの舞台練習場

「料金はいくらかとは思いますが、交通
の便が良く、区外・市外からも通え、スタジオ
も使いやすいので、このセンターの設立以来、
二十年間活動してきました。来年三月以降はつ

なるか分からないので、募集できません。採
算面を強調するのは分かりますが、市民に開か
れた学びの場、交流の場がなくなるのは残念で
なりません。特にこのセンターは他のセンタ
ーにはない明るいムードが特長で、スタッフの対
応も親切でフレンドリー。何とか残してほしい
と願っています。廃止は『市政改革』の一環と
いうようですが、これ以外にも、地域活動協議
会の発足など、市民の心の受け入れが充分でな
いまま強引に進めているような気がしてなりま
せん」(フラダンス教室を代表して抽選会に来た
港区と住吉区の六十代女性)一人

◆カルチャーセンターとは違う

「なくなったら困ります。他の施設へ移ると
してもその辺の部屋予約の競争率が高くなる
迷惑がかかるでしょう。私たちのグループは
みなでお金を出し合っていて楽しもうと発足し、十
七〜八年間自主運営を続け、月に八回利用して
きました。他にもそういうグループがたくさん
利用されていますが、市政改革ではコストダウン
を理由に施設を民間へ売り払い、利用者には
『カルチャースクールへ通え』とかわかればかか

私たちの活動は利益目的のカルチャースクールとはちがって目的が違います。市民化されるという結局は同じですが、利益目的になるのではないうちよいか「ラスクエマダンスクラブの代表を務める堺市在住の六十代男性」

「心と頭と体の健康に役立つという点で高齢者を中心に二十三人が通って（かよ）おられます。交通の便が良く、利用して六七年になります。交通の便が良くなるとよその施設へ回るといってもこの部屋予約の競争率が言わぬ限りお互い困るようになるでしょう」ラスクエマダンス教室の代表を務める東大阪在住の男性

「このセンターの設立以来二十年間利用させて頂いています。美容師などの仕事に生かすため、家族のため、また自分の楽しみのためと目的はそれぞれ様々ですが、交通の便がよいも良いところにもあつて、これまで数千人の女性が習われました。また居住地はな、地域を離れて楽しむという要求もあり、このようにこの場でもなつています。採算やコストを理由に挙げられると難しくしますが、何やかやの楽しみのある場を確保して頂きたい願っています

← 弁天町市民学習センターは様々な出会いと交流の場になってきた（写真は2007年「春」にはなびたあじのイベント）のことも体験「ナー」の茶席



す（着付け教室の代表を務める女性）

◆お金の換算できない効果

「廃止決定は文化を軽視しているのではないかと思えません。市は家賃など経費面のリスクだけで判断しているのではないかと、お金の換算できない、こわい目に見える効果、しみの学習の場や交流の場、生きがいの場になつていく、これには高齢者が活発に動くという町の活性化や経済発展にも繋がっているのを見ることが出来ます。私たちの会では毎月十数人が集まる

って色々なことを語り合うことを通じて視野が広がり、人の輪が広がっていますが、（廃止は）こつこつ学びや交流の芽を摘むことになり、納得できません」文化サークルの代表を務める七十代男性

「私たちがこの場を残してほしいと願っているのは単なる個人的な思いからではなく、市の繁栄や地域の活性化のために必要だと思つたからです」ダンスサークルの代表を務める女性

◆一体で作った市民財産

弁天町市民学習センターは平成五年に設立され、財団法人大阪市教育振興公社が大阪市から委託されて管理・運営を行なっていますが、これまで二十年以上にわたる多くの学習グループや個人が利用し、生涯学習、自分づくり、生きがいのつくり、人間関係のつくり、心身の健康づくりなど様々な目的を実現する場として機能してきました。また各小学校区にある生涯学習ルームとは重要な部分を持ちながら、メニューなどを補い合い、互いに刺激し合ひ、高め合ひながら、全体として地域の生涯学習を充実させてきました。さらに同センターには港区や近

隣区だけでなく、市外や府外からも集い、様々な地域の文化が交わり、刺激を与える場ともなっており、「大阪の文化の向上にも貢献」（菱田所長）となりました。

また交通の便の良さに加え、機能的にも、舞台付きの広い講堂や十二の会議室、ダンスなどに使えるスタジオや茶室などを有し、「ほぼほぼ」の設備を備えた生涯学習センターは全国的にも珍しくとされています。

しかし、「市民の皆さんの活動を支援したい」との情熱を持ち、利用者の声を聞いたり、教室運営へのアドバイスをしたり、いわば市民と一体でこのセンターを作り上げ、菱田所長就任以来四年間に利用率を五割上げたという、スタッフの地道な努力も見逃すことはできません。

◆「カジノ誘致」等々中止を

こうしたいわば、市民が作り上げた市民の財産ともいえる場がなくなることは、地域の損失であり、むしろ市は充実・発展させる方向で「お金を直す」べきでしょう。「賃借料が高い」といふなら、値下げ交渉を市が前面に立って行なえばよいのです。「収支不足」や「コスト削減」

←「学びと交流の場」生きがいの場の存続を願う弁天町市民学習センター利用者の皆さん＝写真は10月1日朝の部屋予約抽選会風景



を言ひなら、「カジノ誘致」など市民には口重めって「利なしのプラン」、「梅田-関空間のリニア鉄道」など財界だけが喜ぶプラン、「道頓堀プー」など大阪の品格を貶める軽薄なプラン等々を中止すべきでしょう。

◆港区民の問題として

その上で、特に私たち港区民にとっては、三年前にはサントリー・ミュージアムがなくなり、昨年には市国商業高校がなくなり、来年には交通科学博物館もなくなるという中で、残り少ない文化拠点となったこのセンターが、自分たちの学びの場であると同時に、色々な地域の文化や活動を身近に見聞できる場であり、そのことを通じて港区の市民性や文化水準を高める場にもなってきたこと、想いを寄せ、センターの存廃を自分たちの自身の問題として捉えることが強く求められています。



史をを 綴って過ごす 良き余生!

大学から都市銀行に就職しましたが、職場の人間関係からうつ病に陥り、休職と復帰を繰り返した揚句に40歳で退職。以後は京都で喫茶店を営み、結婚もせず、山登りを趣味に生きてきました。そんな人生の意味を問い直したく、聞き取りをお願いしました。(60代男性)

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

叫びたい！

今月の提言者

大野 ひろ子さん(南市岡)



生きる権利の回復を

他人事でない生活保護問題

松浦診療所の開設から三十七年、争議突入から二十一年、この歳月(九月三〇頁)働く者の医療を再び「参照」編集部」を振り返る時、社会のあり様、価値観のあまりに大きな変化「気持ち」が重くなります。松浦診療所を生み出し

た当時の労働者の苦しみ、血と涙の犠牲が今日、再び労働者全体を覆っています。その現実ばかりに過酷に感じるかも知れません。

労働をめぐる問題と同時に、医療・介護・年金・福祉・教育など社会保障全体も解体の危機にあります。労働運動は本来、「生きる」という人間の本来の権利の回復、差別・抑圧からの解放をめざしてきました。戦後憲法はその過程で闘い続けた一里塚だといえます。それが変えられてしまったことがどんなに恐ろしい現実をもたらすか、想像するだけで戦慄します。

「二十年争議」を闘った私たちは「生きる権利」の原点を見つめ、医療・福祉に携わる労働者として様々な社会運動への関わりを模索し、社会保障に関わる種々の問題について、折りに触れ発信していきたいと思えます。まずは生活保護をめぐる問題から。

◆前代未聞の大幅削減

今、生活保護は二つの流れで改善が進められています。一つは予算によって扶助費を削減する。もう一つは生活保護法そのものの改善です。後者は総選挙前に一旦、改善案が廃案と

なりましたが、「圧勝」した安倍政権は更に強硬な姿勢で改善をすすめようとしています。

これに先行して八月、一斉に生活扶助費引き下げが受給者に通知されました。政府は二〇一五年四月にかけて三段階で引き下げを行なおうとしています。その第一段となるものです。三年間で平均六・五割、最大で二〇割の引き下げで、一九五〇年の生活保護法制定以来、最大規模です。六月十四日に閣議決定された「骨太の方針」では「社会保障を聖域としなす」「生活保護費をさらに削減」を打ち出し、住宅扶助の引き下げも狙われています。

削減額が一番大きいのが子育て世代です。例えば都市部に住む三世代・二世代夫婦と子供一人の世帯は、これまでの十七万二千円が十八万七千円に、十五年以降は十五万六千円となり、計一万六千円、九・三割の引き下げ。また四十年代夫婦と小中学生の子供一人世帯は、これまでの二十一万二千円が約二十一万六千円に、十五年以降は約二十万二千円となり、計一万円、九割の引き下げ。更に年末の「期末一時扶助」も一人世帯の場合、これまでの約一万八千円が約

一万三千円だ。また三十代の母と子の世帯は、これまでの十五万円が三年間で十四万円にな
り、九千円、六千円の引下げです。

◆「死ねー」と言いつつのか

安倍政権はこの上に物価を「上げ」、消費税
を来年四月から八割、十五年には一〇割まで上
げようとしています。一〇割近い収入減に世帯の
負担増、これは生活保護世帯に、とりわけ子
育て世帯に「死ねー」と言いつつこのも同然で
す。子供の貧困問題、「貧困の連鎖」が深刻な社
会問題となっている中、何と残酷な政治でしょ
うか。これは老人や病弱者の命にも直結する
問題で、「この夏も電気代を節約して熱中症で亡
くなるお年寄りが後を絶ちませんでした。こ
このおじな」がまままま深刻化するのではな
いか。こども心配です。

◆貧困大国での深刻な影響

日本は先進国の中でも突出した《貧困大国》
です。生活保護制度の改善は、貧困家庭 千万
人、地方税非課税世帯三百万人、就学援助を
受けている子供たち百五十万人を直撃します。
朝飯やお弁当がない子供たちや学費が払えず

退学する子供たちが「普通」にいます。

また生活保護基準は最低賃金と連動していま
すから、保護費が下がれば最低賃金も下がらず、
下手すれば下げられてしまいます。労働者の労
働条件にも重大な悪影響が及ぶのです。

また地方税の非課税基準、国民健康保険の保
険料・一部負担金の減免基準、介護保険の利用
料・保険料の減額基準、障害者自立支援法によ
る利用料の減額基準、生活福祉資金の貸し付け
対象基準、就学援助の給付対象基準など、医療・
福祉・教育・税制・公営住宅賃など、様々な
施策にも連動しています。なので、これらを利
用している人々にも深刻な影響が及びます。

◆格差と貧困を拡大するアベノミクス

このよつな引き下げを、厚生労働省はフット
＆ペンで決めました。本来、生活保護を受けて
当然なのに受けられないでいる超低所得の層
（厚労省発表でも七〇～八五割と推計）と生活
保護受給者を比較した数字を根拠に「生活保護
費が高い」としたのです。倒産・リストラ・解雇・
不安定雇用など、大企業の利潤追求のために労
働者や中小零細業者が犠牲になると、年金制度も

お寒い限り。その現実の中で生活保護受給者が
増大してきたのです。「景気回復→賃上げ→国民
の幸せ」→こんな図式を安倍首相は唱えていま
すが信じられますか？ 一番新しい政府統計で
も「賃金の減少」「正社員減少」「非正規雇用
の拡大」といつ事実が示されています。なのに
アベノミクスは更に「極限まで労働者を働かせ、
いつでも自由に解雇できる」「法律改定をゴッド
シヤとこいつしているのです。

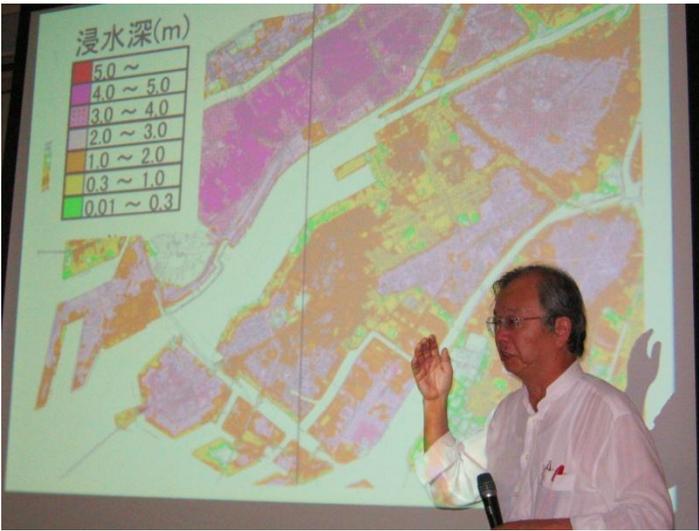
◆一万人の反撃が始まった

生活保護は最後の命綱です。九月からの保護
費引き下げに対し、全国で一万人近い人達から
ある弁護士と共に異議申し立てを行いました。
法的根拠もない引き下げに「却下されたら裁判
も辞さない」と立ち上がったのです。倒産、失業、
高齢で就職できず、「自殺」に失敗、生活保護
で命を救われたある受給者は戦後、日本は弱者
に優しい方向で作られてきた。これを壊すこと
が日本のめざす『美しい国』なのですか？と叫
んでいます。読者の中にも、もし異議申し立て
などの相談があれば、ご連絡下さい。

（港）回信労働委員会 065111-14151

巨大地震・津波で港区は？

河田教授が被災シナリオと防災語る



→南海トラフ巨大地震・津波で港区はどうか
 —被災シナリオと防災について語る河田憲昭
 教授は9月14日、海産通の間口本社ビルで

「南海トラフ巨大地震が起きたら港区はどうかなのか?」「その時にどんな対策が必要か?」
 九月十四日午後、海産通の(株)間口本社ビルで開かれた「港区震災対策フォーラム」には区内外から一三人が来場し、防災学の権威・河田憲昭氏(関西大学社会安全学部社会安全主研究センター長・教授、中央防災会議防災対策実行会議委員、大阪府南海トラフ巨大地震災害対策検討部会長)から、同地震と津波による被災シナリオや防災の備えについて学びました。港区震災対策協議会(西原みゆき会長)が主催のフォーラムは一回目。

◆国の防災姿勢を憂慮

河田教授はまず国の防災の在り方について「オリンピックの東京開催が決まったが、東京だけ安全にされても困る。過去二度も水没している大阪の方が危ない」「江戸末期の大規模災害三連発(一八五四~六六年の安政東南海地震、安政江戸地震、安政江戸暴風雨)のように自然災害こそが国難となる」「スーパー室戸台風、富士山爆発など『想定外の災害』は今後も起こりうる。それに備えた防災で『想定外の被害』を防

←多忙な中間をぬって講演を引き受けた河田教授。ユーモアを交えて縦横に防災を語った



ぐこと。そのためレジリエント(強くてしなやかな社会)づくりを」「民主主義社会は勇気と挑戦の社会。にもかかわらず防災への国の姿勢はなっていない。それで歴代政権に「き使われながら、水や食糧備蓄の増量、陸上自衛隊の増強、耐震部分改修への補助、防災教育の強化など」各大臣に数々の具体的な提言をしてきた「東日本大震災で助かった人は平均四二八歩いたが、その歩くということができないことから、高齢者ほど犠牲が多かった。独居老人には車いすを、若い人が親の実家へ帰った時は隣近所に『父母をよろしく』との声掛けを」といった温かな心

がけが大切」—などと語り、政府の姿勢や国民の心の在り様ように警鐘を発しました。

◆大阪の防災に注意を喚起

また「同教授は大阪の防災の現状について、「網の目のように張り巡らされた大阪の地下街は、床下浸水レベルでも入口という入口から水が入ってくるので危険極まりない」「大阪グランフロントなどの遊興施設は一流の設計者や建設会社に関わっているにもかかわらず、人集めに気を取られて安全は二の次。大震災の教訓が生かされていない。そのアホさは驚くべきだ」「南海トラフ巨大地震で大阪の予想死者数が数十人に對



→河田教授が動画で示した「巨大地震による大

阪の被災シミュレーション」から「御堂筋に押

し寄せる津波①」「道頓堀を襲う潮流②」

して和歌山は八万人。公助（自衛隊）は和歌山へ向かう。大阪は自助・共助で持たせなければいけない」—などと語り、府・市民としての注意を喚起しました。

◆港区はほとんど水没

以上のように語った上で、同教授はこの日の主テーマである「南海トラフ巨大地震の際に港区はどうなるのか」について、この講演のためにつつたという「港区の浸水深図」を示しながら、①港区全域が震度6弱以上の揺れに二分間以上見舞われ、埋立地は液状化で浸水し、住宅は傾き、全壊する②海岸護岸や河川堤防は部分的に不同沈下し、水門なども閉まらないものが出ている③時間後にやってくる津波は、満潮時ならいきなり防潮堤を越えて浸入し、港区の八割が浸水し、浸水深は築港地域で三〜四メートル④特に「川建住宅やマンションの一階は完全に水没するので、事前に避難しておいたことが決定的に重要」と呼びかけました。

◆危険な状況が6時間続いている

また「南海トラフ巨大地震の際に」港区が面する海面の状況」について、①M9.1の地震

→河田教授がスライドで示した「一流設計・建設企業による安全無視の建設例」から「大阪フロント①」「大阪府咲洲庁舎②」



の場合三・八メートルの津波が、時間後に来襲する②この時、満潮なら海面は二・五〜三・八メートルになる③しかし海岸護岸の高さは五・二〜十・五メートル余り高くないから、天端てんぱすれすれまで上昇する④つまり非常に危険な状況が干潮までの六時間続いている⑤もし津波と一緒に船舶やコンテナなどが漂流してきたら護岸は簡単に決壊し、浸水が始まる」と語りました。

◆日常の備えが大事

そして最後に「同教授は「東日本大震災の教訓」として①日頃やっていることしかできな②日頃やっていることには失敗がある③毎日の

生活の送り方が災害時の運命を決するーと呼びかけ、「日常防災」の重要性を重ねて強調しながら、「一時間」にわたる講演をこめくりました。

◆防波堤など質疑応答

このあき場での質疑応答の時間がとられ、次のような取りがありました。

・防波堤には「土」まで信頼を置いたらよいのか
↓高さを重視したが、基礎部分が液状化などで沈下や破壊をきたさないかどうかのポイント。信頼性は〇ではなすが100%でもない。

・八幡屋公園は避難場所とされているが、低いで津波の時には心配↓地震の際の「避難場所」と津波の際の「避難ビル」とは別。地震が起きてから「一時間の余裕があるのだから」その間に「津波一時避難ビル」へ避難するつもり。

・十四階建のマンションに住んでいるが、築三十八年で耐震性が心配↓耐震診断を受けるべき。三日月田へはどうかかな。

・水門の動きはあまるのか↓これは「津波の時に閉めると却って危険」ところに閉めなさい」ということなので、津波が川を遡ると川上から先にあまるのは止まらなげなげにけなす。

◆「こわい話を楽しく学んだ」と参加者

住友江区から参加した近藤光夫さん（七九）は終了後、「ホームページを交えてくださったのは、教えて頂きましたが、普段の心がけが大事だということが一番強調されていたように思います。マンション七階に住んでいますが、高いから大丈夫と思わず、今日言われた備えをしっかりとっておこうと思いました」と話していました。

また、築港から参加した六十代男性は「一般的な防災の内容を面白く話して頂き、とても勉強になりました。ただ港区の具体的な話が駆け足だったので、質疑応答の時間が少なかったのが残念です。その辺を工夫すれば、もっと港区民が自分たち自身の問題として考えられたので

はないでしょうか」と話していました。

また、やはり築港から参加した吉川安代さん（四十代前半）は「津波が来てから六時間は我慢しなければならぬ」と、地下街は非常に危険であること、遊園施設は防災よりも人集めを第一に設計されていることなどが分かり、身が引き締まりました。遊びに行く時もその辺を覚えて行動します。「こわい内容をもっと楽しく学ばせてもらいました。ただ、港区のことももっと聴きたかったですね」と話していました。

なお同会では講演DVDを送料込千円で頒布（はんぷ）申込は☎六五七六・六三三〇山田事務局長へ。



↑会場を揮めた参加者の質疑応答風景

記念写真は写真館で

誕生日も父の日も お宮参りも百日也

みなさまの写真スタジオ

三上写真館
Photo Studio MU

三上写真館 磯路2-3-14(市岡中前)木曜定休
☎0120-813788
<http://www.photostudio-mikami.com>

至弁天小頭
港防衛署
港民センター
中央大通り
三社神社
市岡中学
ココ
至みなと通り

青バスまでなくなるとは

区民怒りの声「赤バス復活こそ」



→「青バスまでなくなるとは生きにくいけない」と

青バス存続が赤バス復活を望む切実な声が続出した「赤バス協議」＝9月4日、港区役所

「青バスもなくなるとは生きにくいけない」。

九月四日「港区役所で行なわれた「赤バスの存続を求める港区連絡会」(石井ひさ子代表)と港区役所との協議には、赤バスに代わって走り始めた青バスが「来年度にはなくなる」と聞いた利用者ら約二十人が怒りの声をぶつけました。利用者はまず、回会が事前に提出していた要望書に対する港区長の「回答」を読み上げられました。このうち「来年度以降も赤バスが青バスを走らせてほしい」という中心的な要望に対する区長回答の骨子は、①大阪市のバス事業は民営化を前提に見直しが進められている②その中で港区の青バス運行は今年度限りとし、来年度からは一般バスだけを走らせる③その理由は新たな一般バス路線(4号系統Ⅱ弁天町バスターミナルから朝潮橋駅を抜けて池島・八幡屋までを往復する)によって区内の交通不便な地域(鉄道駅から五〇〇m以内、バス停から二五〇m以内)に入らない(は概ね解消されるから)というものでした。

これに対して参加者から次のような声が上がりました(本紙で内容別に分類しました)。

①港区役所の努力を讃える声＝「四月から赤バスの代替運行をしていない区もある中で、区民の声にこたえて青バスを走らせてくれた」など
②赤バス復活を望む声＝「赤バスを導入した時の「福祉バス」の理念は今も生きている。赤バス復活こそやるべき」など

③現在の青バスの改善を求める声＝「手押し車の置き場を広げて」「弁天町バスターミナルで一日降りなくて済むように徹底して」など
④「4号系統Ⅰの問題点を指摘する声」＝最も利用の多い波除が空白になる「池島・八幡屋から区役所など区中心部に繋がらない」など
このうち波除在住の八十年代女性は4号系統について、「地下をくぐって弁天町バスターミナルまで歩き、そこから朝潮橋まで乗って、今度は逆方向の夕凪や区役所へ。そんなこと毎口できません。足がまた悪くなる」と訴えました。
参加した八十年代男性(池島在住)は協議の後「橋下市長の「何でも市民営化」という流れと圧力の中で、田端区長と職員が踏ん張って青バスを走らせてくれましたが、区民のために、もう一回頑張りたい」と話していました。

老人の心配事

池島一・勝部素臣の60歳

自転車のスピードが速いから知れているけれど事故が絶えない。やや子(赤ちゃん)編集部)を乗せてケータイにかけてる若い主婦など私より速いスピードで過るまっく行く。咄嗟の時(つ)対応するんだらうけど、心配性で臆病な男は気に病む。通学途上の子供の頭の上を車が飛んだなんて、開いた口がふさがらぬ。J.R尼崎事故だつて、こんなった運転士には悪いが、あの力一丁でスピード出し過ぎなんだらう。

機械文明が幾ら進歩したつて最後の最後は「人」である。「復興は不要……」のプログラム込みをした経産省のエリート。秀才中の秀才だろうが、想像力の欠如には驚きだ。無味乾燥な法律書や試験の為の勉強ばかりしててのから、偶(たま)に「ついでに冷血人間が官僚になつてしまつ。戦後(ご)のついでに民主主義教育は、」とありあたりから見直す時に来てると思つ。

団塊世代以上の年寄りが集まるので、不思議な話題が一致する。

「子供があいさつしない、気がない、はきはきと物を言う。」

「一部の保護者がこじやばり過ぎる。」

「先生も親も子供を叱りつけない(子供は叱られて成長する……)。」

「このままじゃいつかの国の植民地になつて言つてもいい。政治、経済、文化、教育……昭和(わ)とトクタ生まれの老人には何もかも異常に思えてならない。酷暑、台風、竜巻、大雨と異常が続く……」のこの地球のよう……」

「原発講演から」の世のあり方を考えた

田中・60代女性

先日(九月二十四日)、中央区の御堂美術館で京都大学で長く原発の危険性を訴え続けていられた小出裕章先生の公開講座「誰かを犠牲にする原発」があり、友人と聴きに行きました。まず、お坊さん(真宗大谷派)の主催である(参加者(100名)は)のうち中高年が七割以上であつたことが印象的でした。

講座では、宇宙・生物・人類の誕生から現代に至るエネルギー消費の歴史、特に現代の原子

力事情が語られ、「このまま進めば未来に展望はない」と警告されました。難しい内容でしたが、

誰にも理解できないものが、何度も手を加えて出来上がったと思われるカラフルな図表を使って非常に分かりやすく説明して頂き、原子力に関わる科学者としての使命感と熱意を感じました。

非常にたいへんなことをお教わりしましたが、中でも、「本出」の「豊かさが必要かどうか。そのために莫大な数の生き物が絶滅危惧種に指定され、実際に絶滅し続けている。地球上のあらゆる生き物の中で唯一、戦争をしたり、弱者を犠牲にしたり、傍若無人な振る舞いをしてる人類こそが絶滅危惧種ではないのか」という意味の言葉が心に残りました。

その後の質疑応答では、小出先生がまるで山彦(やまひこ)のように素早(すみ)く、しかも誠実に熱意あふれる回答をされたことに感銘を受けました。

今、日本中で全ての原発が止まっています。しかし誰も困っていません。我が家でもこの夏から茶の間の蛍光灯の調子が悪く、一本のうちに一本しか点きませんが、夕飯時などに不便(びん)はない何ほほと「明(あ)るをい(い)て貰(もら)ってしまつて

ったんや」と反省したものです。そしてこれからは、家の中は少々暗くても、不要な明るさを“で人々を愚かにしている”この世の黒幕を「クハクハ」とはっきり見定めようという心に決めました。

「公園猫ポーター」に感服と期待

(波篠・70代男性)

毎月、私の知らない港区の出来事を詳しく楽しく伝えて頂き、感謝しています。毎月(朗読)は「共生社会入るなら」充実を、「公園猫ポーター」制度『3年目の課題』(1頁)を興味深く読ませて頂きました。私は猫が嫌いという訳ではありませんが、好きでもないので「うーっ活動がある」とはまるで知りませんでした。がこの記事から「公園の野良猫を増やさないよう」市「委託されて懸命に努力されている方々がおられる」とことを知り、感服させられました。「人間の身体を手で拾われた不幸な生き物の命を一つ一つ、少しでも助けたい」というサポートの方の美しいお気持ちにも洗われる思いでした。手術費の負担が解決しなければならぬ課題は色々とありますが、せいかへ立ち

上がったこのシステムが、より効果のあるものに改善されるよう期待しております。

95歳の「戦場体験」に感銘

(波篠・60代男性・元教師)

毎月ネットで読んでいきます。この紙面にも感銘が表われていると感銘しています。今月は特に「平和願い体験語り」(朗読9頁)に感銘を受けました。九十五歳の高齢者が中学校に伺って戦争体験を語ったこと自体、奇跡的で素晴らしいことですが、その内容も分かりやすく、実に教訓的でした。南方の海上で撃沈された味方



→読者の作品から拝読された

(中岡正昭)の絵手紙

船の兵隊を助けられなかった辛さ、原爆投下時の広島の悲惨な様子ーなど。特に自分自身が原爆で死にそうなのに救援に向かわれた行動には、東日本大震災での助け合いと同じく、日本人として世界に誇れる気高さを感じました。「ゆづりけ」にも書かれていましたが、企画した中学生も、語り部も、本当に立派だと思います。こういう取り組みが港新聞を通じて日本中の学校に広がってほしいと期待しています。

中身が詰まった「大空襲を語る会」

(夕田・50代女性・元教師)

港新聞のホームページから「戦争体験の継承をー 南中岡で大空襲を語る会」(朗読11頁)を読みました。11という集まりが港区で毎年持たれていることを初めて知りましたが、それ以上に、その内容の豊富さ、そしてレベルの高さに感心しました。憲法九条の朗読から始まり、イラク戦争、若い世代が父母から伝える聴いた戦争体験、高齢者が自ら語られた体験、体験記の朗読ーと中身がいつも詰まっています。「これから次の世代が聴き取って語り継いでいくことが重要で

なる」として主催者の言葉は本当にそうだと納得しました。元教師仲間から「港新聞って面白くないだよね」とも聞いた。この夏から読み始めていますが、噂通りだと実感しています。この記事も面白く勉強になりましたが、今回は特に「集」が印象に残ったので、感想を伝えたいつもりです。

障害者だけではなく不合理だった

区内・40代公務員

「障害者の外出に不合理な縛り」是正求め関係者が協議(前号)の頁を読んだ。最初に、港区の先天性脳性麻痺(まひ)の男性が受けた「被害者」が紹介され、それを題材に「どう解決するか」が話し合われたようですが、その中で、「どういった問題が、単に障害者のヘルパー利用に対してだけであらう、生活保護など様々な問題に共通する、国や自治体の姿勢の問題である」と指摘されていたのが印象的でした。私自身、地方公務員として色々な矛盾や不合理を感じることがあります。それを市民、特に障害者は一層切実に感じられているのが分かり、今後の業務に生か

したいと思いました。

思わず笑った「ぼろぎサロン」

(港)・80代女性

「笑って認知症予防 いきいきサロンで落語や日舞」(前号)の頁が面白かったです。最初の写真(女の人たちが口を大きく開けて笑っている)に思わずこちらも笑ってしまいました。何度見ても笑ってしまいました。落語や日舞や替え歌や脳トレーニングなどいろいろありますが、これも歌やゲームが楽しく、お風呂も気持ち良々、スタッフの皆さんには本当に感謝していますが、こんな楽しい催しなら、こちらにも参加してみたいと思った次第です。

満蒙拓青少年義勇軍の悲劇に絶句

(三先)・60代女性

猪俣昌三様の「戦争体験」(前号)の8頁に第五回)を欠かさず読んでいます。今回は満蒙拓青少年義勇軍のことが中心でしたが、あまりの悲劇に絶句しました。無邪気な笑顔の写真が

その思いをよけいに強くなりました。「大人だけでなく、こんな少年までもがお国のために……」と涙が溢れることになりました。戦争が終わっても死んだ仲間の服や持ち物をばきったといういじめのない出来事もあったようですが、それも戦争のなせること。本当に戦争といふのは何もついてもを生み出さなかつたかと思えました。今もシリアやイラクでは内戦や紛争が激しく続いています。そのニュースを見るとき、一刻も早くやめてほしいと心から願わずにおれません。それにしても、少年だった猪俣様の詳細な記憶記述には改めて感心させられています。

住まいの防犯レベル 高めよう

- ① ワンドア・ツーロックは常識
- ② ピッキングに強いカギに交換
- ③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎ **0120-70-5569**

(3F) 港カギ防犯センター

安全・安心を
ご提供します

至港八幡町
港小
みなと通り
港カギ防犯センター
至港三軒屋
至港大馬場

港区港嘴1-4-8 (港嘴小学校並び)

☆大阪府銃前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

長年の貢献お疲れ様

敬老の日 各地区で祝賀会



→ 地域挙げてのもてなしが温かかった南市岡敬
老の祝い大会(写真)は舞台で拍手する参加者

長年の社会貢献お疲れ様でした。「敬老の日」の九月十八日を中心に、港区でも各地域で敬老の催しが行なわれ、一〇八歳の女性二人を筆頭に、一〇〇歳以上の二四人(男一人、女三人、七〇歳以上の二三八八人)港区地域振興会各連合女性部調へ(昨年より二七九人増)が長寿を祝福されました。

●南市岡では70歳以上が576人

一このつち台風一過の十八日午後に南市岡小学校で行なわれた「南市岡敬老の祝い大会(南市岡地域活動協議会主催)には南市岡一、二丁目から約一五〇人が参加しました。

第一部・式典では長岡富雄・地域振興会南市岡町会連合会会長の「開会のことば」に続いて

川淵信彦・南市岡地域活動協議会会長が「大会会長あいさつ」に立ち、①同地区の七十歳以上が昨年より増えて五七六人になったこと②同地区の最高齢は一〇四歳の山谷花子さん(南町会)③ゆめゆめこれに次ぐ高齢者は百歳の女性一人であることなどを報告。同地区の金婚夫婦十三組に記念品が贈られました。

「ゆめゆめ」の「来賓祝辞」では田端尚伸・港区

← 大会会長として挨拶する川淵信彦・南市岡地域活動協議会会長(右)と開会の言葉を述べる長岡富雄・地域振興会南市岡町会連合会会長(左)



長(代読)に続いて四野宮康子・南市岡小学校校長が登場、「子供たちが皆様に書く手紙は年々増えていますが、しっかりとした文字、分かりやすい言葉でと指導しています。プレゼントの花は種から育て、暑過ぎた夏にはつまみ食いかないこともありました。九月に入って勢いが出てきました。皆様の温かな見守りのおかげで元気に二学期を迎えられました。子供たちのあいさつに「元氣のない時、恥ずかしくその時はひび声かけてやって下さい。子供たちが皆様のようについていっても元氣でいられるよう、体力の基礎を作っていきなさい」と語りかけました。

●心への出し物が次々

第一部・演芸では地域の人たちの心づくしの出し物が次々と登場しました。

夏井シズ子さんは『珍島物語』の歌に乗せて艶やかな踊りを、田所隆子さん率いる民謡フル



→ ゆったり優雅な動きで会場をうっとりさせた

南市岡小学校生涯学習ルーム「ハワイアン・

フロア」教室のコンサートを『憧れのハワイ航路』

ーブ「隆勢会」は濛利とした動きの銭太鼓で

『牛深ハイヤ節』などを、片岡寛康代さんが所

属する「スヘルグループ」がワイヤ552「港

区民」により〇八年結成は軽快なリズム感で上

を向いて歩こう」などを、南市岡小学校の山元

教頭は全盛時の沢田研一を彷彿させる激しい

振り袖と透き通った声で『勝手にしやがれ』を、

南市岡小学校生涯学習ルーム「ハワイアン・フ

ロア」教室（講師は富長信子さん、毎月第一・三

水曜日の午後七〜九時に練習、月謝十円）に学

ぶ女性十人はゆったり優雅な動きで『パリー

シエル』『プープアオ・エヴァ』『憧れのハ

ワイ航路』を、それぞれ披露しました。

また飛び入りの松本太郎さん（磯路）はフー

テンの寅さんスタイルで「寅さん」「山下清など

の物真似を、飛び入りの川淵信彦さんは「ユーモ

ラスな口上で瓶ビールがビールに変わるマ

ジックを（実際には時間切れでできなかった）、

黒石しずみさんは濃々しくも晴れやかな動きで

新舞踊『寿』を、太田和喜さんは力強く張りの

ある弁舌と姿勢で民謡『津軽』を、喜馬康至

←濛利とした動きで会場を盛り上げた「隆勢会」

の銭太鼓と、パワフルに『大阪元氣音頭』

を歌い踊る喜馬康至さんから民謡フルーブ



で『大阪元氣音頭』を披露。最後は希望者総出

演による『河内音頭』の輪が会場を囲みました。

●温かみと誠実さ

全体を通じて、会場では町会女性部や女性会

は、くみネットの女性たちが受付や来場者の世

話をする光景が温かく、舞台袖で青少年福祉委

員会の男性らが進行や音響や緞帳の上げ下げ

に汗を流す姿からは、若い世代の高齢者への敬

意が窺えました。

また閉会手前まで席を立つ姿はほとんど見られず、

戦後日本を築いてきた高齢者への地域挙げての

もてなしの温かさと共に、参加した高齢者の側の誠実な姿勢も強く感じられた催しでした。

●「幸せな人生やった」と金婚夫婦

終了後、金婚祝いを受けた江崎孝さん（七二）・民子さん（七四）夫妻（南市岡一丁目）は、これまでの人生や社会への思いを話しました。

孝さんは昭和十五年十月、民子さんは昭和十四年一月、共に現在の香川県さぬき市に生まれました。戦争が終わって孝さんは地元の中学校を卒業後に大阪市港区へ出、市岡高校中退後の十八歳で理髪店に住み込んで修業、昭和二十八年春、二十一歳の時に知人と共同で店を営むようになりました。一方の民子さんは地元の中学校を卒業後、職業補導所で理髪技術を習得し、理髪店を営んでいた三歳上の姉のもとで修業を重ね、その後、その店を継ぎました。

そうして昭和三十八年九月、共に理髪業に関わっていたことが縁で見合い結婚。最初は港区又田で、次いで現在の南市岡で店を構え、二人力を合わせて営業を続けてきました。

この間の昭和三十九年には長女が、同四十五年には長男が誕生。その後、それぞれ三人の

←金婚祝いの花束を受ける江崎孝・民子夫妻

10月16日、南市岡敬老者の祝い大会場で



子が生まれ、孫は計八人。さらに昨年八月には双子のひ孫が誕生したというほどだ。

孝さんは「こうして長生きできた上、ひ孫までできて一族の広がりを見られ、これは嬉しいうことはありません。住み込み修業時代は苦しいこともありました。一人で店を営むようになってからは順調で、特に苦労した思いはありません。全体として幸せな人生でした。」

民子さんは「お陰さまで結婚以来、主人と共に

に幸せな人生を送ってこれました。今年に入って大病を患いましたが、今は何とか回復し、仕事は主人に任せてゲートボールやグラウンドゴルフを楽しんでいます。」

そして最後に、「日本の高齢者は医療や介護での負担が増え続けるなど、年々厳しい状況になっていますが、それでも世界的に見ればまだ恵まれている方だと思います。とはいえ、国の借金はおまりにも莫大で、将来どうなるのか、どう解決するのか、とても心配です。ぜひ国民みんなの力で乗り切っていくかなければならないと思っています。」と声を揃えていました。

ふり良の余生のために自叙伝を!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

芸術の世界でそれなりに実績を積み、環境保護など社会貢献もしてきたと自負していましたが、一度これまでを振り返り、今後の跳躍台にしたいと冊子化を依頼しました。他人に聴いてもらうことで新たな発見もあり、それ自体が貴重な体験でした。(60代女性)

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

おもちゃ図書館オープン

障がいのある子どもたちの遊び場



→「障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らし

く遊ぶの楽しさを」と開かれたおもちゃ

図書館ひまわり開館イベントの2日目

「障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らしさを遊びの楽しさを」と九月二十一日、港区民センターで「港区おもちゃ図書館 ひまわり」のオープニングイベントが開かれ、障がい児とその母親など多数が来場しました。港区社会福祉協議会・港区ボランティアビューロー・おもちゃ図書館「ひまわり」が主催。港区役所、港区保健福祉センター、港区子ども・子育てプラザ、大阪市「ミニコミュニティ協会港区支部協議会」多くの企業やボランティアが協力。

●「おもちゃ図書館」とは

「おもちゃ図書館」とは「障がいのある子どもたちにおもちゃの素晴らしさを遊びの楽しさを」との願いから始まったボランティア活動。日本では一九八一年の国際障害者年をきっかけに全国的に展開されてきました。多彩なおもちゃを用意し、障がい児でも楽しく遊べる場、お母さんたちのコミュニケーションや情報交換の場になることを目指しています。港区では「ひまわり」の愛称で、十月十一日（土）を第一回として、

以後は毎月第三土曜日の午後一時半～三時半に同センター「橋」（おだちばし）で開催されることになり

↑おもちゃづくりの新聞紙の山に埋もれる男児

⑤ カラーボールのプールで遊ぶ男児たち



ます。このイベントは、その取り組みを区民に広くアピールするため開かれたものです。

●木下 落書き、魚釣り、人形劇など

午前十時から二時間、会場のホールには「エほんスペース」「お魚釣りあそび」「ボールプール」「落書きあそび」「木工・工作あそび」「パラバルーンスペース」「新聞づくりあそび」などのコーナーが設けられ、またお話しコーナー「プー」による人形劇や紙芝居「座」「千の風」による紙芝居の上演もあり、母子らが次々と訪れては楽しんでいました。

新聞紙で作ったバットとボールでスタンプ相手づくりあそびの回男児の「お魚釣りあそび」の新聞

紙の山に埋もれる女の子、カールボールのプールで泳ぐ女の子、クイースに全身で反応する男の子、木製玩具で静かに遊ぶ視覚障がいや自閉症の男の子などの姿が印象的でした。

●自閉症児も笑顔に

参加者のうち山岡弥生さんと市岡は俊介くん(六歳)保育園長役を連れて会場を回りながら他のお母さんと話していました。

「自閉症なので、まず外へ連れ出すのに苦労します。今日はいく入来てからも、会場の広さや人数の多さに気がおそわって、最初は『えほんスペース』だけで遊んでいましたが、だんだん笑顔になり、他の遊びもするようになってきました。この『おもちゃ図書館』がスタートして、障がいのあんなお母さんたちが気を使わずに遊ぶ場所ができるのは、とても嬉しいことです。親子の交流の場にもなります。この子は意外と飛び跳ねることが好きなので、トランプポンなど体全体を動かせる遊びが加われば、ぜひ嬉しく思います」と話していました。

●毎日も開くつもり

また松村祐子さんと(南田園)は優樹様(三

歳)と隼くん(一歳)を連れて参加し、二人を木製玩具で遊ばせていました。

「ほかにもメガネつくりや積み木、落書きなどをして遊びました。隼くんは視覚障がいがあり、あとしお園(又田)の肢体不自由児通園施設に月一回は通っていますが、まだ小さいので、この程度でいるのが分かります。これから大きくなるといって行動範囲が広がるので、安全面などが心配になります。この『おもちゃ図書館』は、こうした障がいのあるお母さんたちが気兼ねなく遊ぶ、親子でも交流できる素晴らしい取り組みだと思います。月一回と聞いてはいますが、できればもっと回数を増やしてほしいです」



→ 隼くんスペースのおもちゃで遊ぶ山岡のひ、クイースに全身で反応する男児(田)

い、毎日でもあつてほしいと思います」

また一〜三歳児や障がいの母親でついでが知の合える場は少ないので、こうした場を自然に交流するだけでなく、きちんとして時間や場所を設定して色々な情報交換ができる場があれば、なおいいのではなごうかと話していました。

●障がいのあんなお母さん

また「五歳女児と一緒に人形劇に見入っていた二十代の母親は「スタッフの方に聞いて尼崎から来ました。この子は特に障がいはありませんが、他の子と一緒にボールプールや落書きなどで遊びました。この『おもちゃ図書館』は、障がいのあんなお母さんと一緒に遊ぶ、楽しみながら交流できるのがいいですね。尼崎にもあつたらいいと思います」と話していました。

主催団体である港区社会福祉協議会・港区ボランティアメンバーの担当・荻野和代さんは「初めての試みで不安でしたが、多くの方で楽しんで頂き、感激しています。これから月一回開くつもりですが、参加者の意見も採り入れながら、よりよくなるよう頑張りたいと思います」と話していました。

暮らしを支える下水道

好評だった市岡処理場「一般公開」



「生活を支える下水道の役割がよく分かった」と好評だった市岡下水道処理場「一般公開」
10月7日（土）は沈澱池を見学する参加者

「港区民の生活を支えてくれる下水道の仕組みがよく分かった」。九月七日に行なわれた市岡下水道処理場（市岡）の「一般公開」には約一百人が来場。朝十時から夕方四時まで、施設見学などを通して、汚水や雨水が様々な処理を経て尻無川へ放流される仕組みなどを学びました。「市民に親しまれる施設」と毎年この時期に実施されている催しは、二十回目。

◆汚水をきれいにする

このうちメインの「施設見学」では、下水道を通じて場内に流れ込んだ汚水や雨水が、①沈砂池（大きな砂やゴミを取り除く）②沈澱池（味噌汁をしばらけ置いておくと上澄みと下澄みの原理で汚れを沈殿させる）③反応槽（つりがね虫など好気性の微生物に汚れを食わせる）④沈澱池（もう一度汚れを沈殿させておいて澄ませる）⑤消毒室（O157などが発生しないよう次亜塩素酸ソーダで大腸菌などを消毒する）⑥ろ過を経て尻無川へ放流される仕組みを職員が処理順に引率しながら説明してくれました。

◆町の浸水防ぎ役割

見学途中に訪れた「第一ポンプ棟」では、大雨

の時に町が浸水しないよう雨水を尻無川へ排水できる五百台の巨大ポンプがあり、全て稼働すると一分間に二十五立方メートル杯分の雨水を排出でき、一時間に五十〜六十センチまでの雨量なら大丈夫なことなどが説明されました。

また、今回初めて「中央監視室」が公開され、施設の運転状況をテレビや計測器で監視したり運転操作したりする様子が見学できました。

◆微生物が汚れを食える

この他、会場には、①顕微鏡での微生物観察②下水道の仕組みや歴史が学べるDVD上映③抽水所（地中深くを通る下水をポンプでくみ上げて処理場までスムーズに流す施設）の模型④手づくり遊びなどのコーナーが設けられ、家族連れなどが楽しんでいました。

このうち「微生物」コーナーでは、「反応槽」での汚水処理の様子、つまり微生物が汚れをパクパク食へる様子が、拡大モニターで百倍や二百倍の映像になって手に取るように分かり、子供たちが歓声をあげていました。担当の職員は「形や大きさや動き方がちがう色々な微生物が、水の温度や泥の多さなどに応じてチーム編成を

変えながら、力を合わせて働いていっているの
です」と説明してしまっただ。

なお来場者には、①フリップファイル ②下水道
理の仕組み・流れの図解を印刷 ③水切の「ミ
袋（再生原料使用・不織布タイプ） ④地球環
境に優しい肥料 ⑤地球環境に優しい透水性シ
ンガーなどのプレゼントがありました。

◆仕組みが良く分かった

母親の上安幸子さん（蓮わらわ）に連れられ、妹の3年生
や弟（1歳）と一緒に施設見学をした。良芽
君（三先小学校五年生）は「初めて参加しまし
た。水が泥と分けられ、だんだんきれいにな



→水の汚れを食へてくれる微生物（バクテリア

を顕微鏡で観察するのは面白いDVDです

水道の仕組みや歴史を学ぶ参加者

っていく仕組みがすごいと思いました。とても
勉強になりました」と話してしまっただ。

同じく施設見学をした伯岡和子さん（六
〇市岡）と小川エミ子さん（六六市岡元町）
は「初めて参加しました。汚れた水がきれいにな
る仕組みが良く分かり、そのため電気代な
どの経費がたかつかかるといって、運転の様子
を二十四時間監視するなどの職員さんのお仕事が大
変なことも分かりました。そんな話方に心
えるためにも、家ではこれから食用油などをむ
やみに流さないように気を付けたいと思いました。
こういう催しは、普段意識しない施設の大切さ
を市民に気付かせてくれるので、これからも続
けてほしいです」と話してしまっただ。

◆紙芝居を復活せよ

またDVDを熱心に観ていた女性（六〇市
中）は「水道の役割が分かることも良い内容で
した。子供向けがあげばいいと思う。今年
それで、去年まであった下水道内部の実況中継
や高圧洗浄車の実演、それに台成洗剤や食用油
を流さないで教える紙芝居などがなくなった
のが残念です。予算の都合もあればいいですが、

↑下水処理の仕組みやこの催しのあり方につい

て職員と意見交換する女性（中）、抽水所の役
割や配置について職員から説明を聴く男性（中）



せて復活させてほしいです」と話してしまっただ。

◆大阪で4番目に建設

なお、この市岡下水処理場は一九八一年四月、
市内に十一カ所ある下水処理場のうち四番目に
完成。処理区域は港区全域と西区の一部。昼間
は十八名、夜間は三名が働き、台風などの非常
時には増員されます。現在、大阪市建設局の所
管。二〇〇一年八月に大阪で初めての「雨水
滞水池」が完成し、それまで雨天時に放流して
いた降雨初期の汚れた雨水を貯めておき、晴天
時に高級処理をして尻無川に放流することがで
きるようになりました。

健全な遊びが一杯！

台風になげず「わんぱくまつり」



→大勢の子供で賑わった「みなとわんぱくまつり」
 9月15日、港近隣センター(写真)は母子に人気のあったバルーンアート「ナー」

子供たちに健全な遊びと親子ふれあいの場を。九月十五日、八幡屋の港近隣センターで「みなとわんぱくまつり」が開かれました。三十二回目。本来の会場は八幡屋公園を生会場ですが、今回は台風十八号接近による荒れ模様のため、会場として初めて同センターが使われました。主催は港区役所と大阪市コミュニティ協会港区支部協議会、協賛は港区子ども会育成連会(会長)。

◆広がるふれあいの輪

朝十時からの開会式では長岡富雄・港区コミュニティ育成会議(会長)も育成推進事業部長の関会宣言に続いて田端尚伸・港区長が「港区では色々な行事の見直しを進めているが、このま



→「お社の言葉をしっかりと読み上げよう子供代表」
 ④「お社の言葉をしっかりと読み上げよう子供代表」

「スマートボールを楽しむソフトボール選手」
 ④「ソフトボールの絵描き」夢中の少女たち



つのは毎年新たな協力を得ながらふれあいの輪が広がっている素晴らしい取り組み、武智虎義・大阪市コミュニティ協会港区支部協議会(会長)が「親子の絆の大切さが言われていながら、この行事は年々歳々広がりを見せ、大変意義ある催しとなっている」とそれぞれ関係者への感謝と激励を表明。八幡屋子ども会の男女児一人が「お社の言葉」を読み上げました。

◆心込めた各「ナー」

会場では午後二時ごろまで、子ども会役員や青少年福祉委員など地域の大人たちが心を込めて工夫を凝らして準備した「や・カーリング」「のちやんめい」「フェイスワターゲット」「スマーボール」「割のばし鉄砲」などの遊び「ナー」

「必死でテトンを組み上げる少年たち」とアーチエリートで中々の腕前を見せる少年④



「参加カード」を首にかけて次々と訪れる子供たちを、それぞれの担当者が汗だくの笑顔で迎えていました。

◆新たな体験コーナーも登場

また今回、新たなグループの協力を得て登場した「みんなでひまわりをさがそう」（港近隣センター）「JOMO絵画教室」（「ハルーンアート」）はつぴいポケットみなと（と）などの体験コーナーも、母子らが待ちの行列を作る盛況を見せ、やほしの子ども会役員が準備した「ひやこめ」「綿菓子」などの飲食模擬店も、有料ながら、訪れる子供が後を絶ちませんでした。

◆「無料で遊ぶ、健康②」

文太くん（四歳）三先幼稚園年少（と）彩ちゃん

ん（八歳）を連れて回っていた吉岡明彦さん・由美さん夫妻（八幡屋）は「子供たちはハルーンアート、スーパーボールすくい、ヨーヨーつり、それに絵が好きなのでプラバンなどをして遊びました。無料というだけでなく、内容も、自分で作ったり工夫したりでき、とても健康的だと思います。苦勞して準備された地域の方々」に感謝しています。これからも続いてほしい行事ですね」と話していました。

◆「暑さたり工夫したりが楽しい」

また弁天地域の子ども会として参加したソフトボール選手の塩見優太君、キックベースボール選手の山本絵美さん、工藤聖子さん（二人とも弁天小六年）らは「どの遊びも面白かったで



「粘りを發揮してユウやハクヨーヨーを釣り上げ

た幼児⑤）、割りは鉄砲に真剣な少女⑥

「冷やし飴とオレシジュニアスを両つりに飲む少年たち⑦」と色紙綿菓子を求める母子⑧



すが、特にディスクターゲットやテトロンが面白かったです。「暑さたり工夫したりで楽しいところが楽しいです」「毎年参加していますが、色んな遊びを準備して下さるお兄さん・お姉さんとはとても大変だろーと思えます」「このわんぱくつりはずっと続いてほしいです」など口々に話していました。



曇り空から激しい雨風へと変わらぬく空模様をものごませず、扉内「響」へ子供たちの歓声、大人たちの真剣で温かな見守り。毎年このようながら、「競争社会の殺伐とした空気が子供たちをひたひたに包みこまらぬ」「ここは地域の愛情と熱意が感じられる催しでした。」

交通ルールを守ろう！

海遊館前で秋のキャンペーン賑わう



→賑わった「秋の交通安全キャンペーン」
月21日、海遊館前(写真は日バイに試乗して
タレント武田訓佳の様子)が撮影された

「交通ルールを守ろう」と九月二十一日午

後、海遊館前イベント広場で恒例の「秋の全国交通安全運動」街頭キャンペーンが行なわれ、

港区民や観光客ら多数で賑わいました。大阪水上警察署(海岸通)が主催。回着で港警察署

(市岡)と高速道路警察隊が呼びかけ。

【よしのぶのり

の後、「お天気お姉さん」として人気のタレント・

武田訓佳さんが「大阪水上警察署長」の襟をかけて登場。トークショーでは婦人警官から

出されたクイズ①自動車が行けるのは車道か

歩道か②自動車に乗る人が必ずしなければならないこととは③に全て正解④基本的な車

道⑤後部座席の人も含めてシートベルト着用⑥など)して大きな拍手を浴び、交通安全入口ー

ガンしっかりとルールを守って事故防止「気を付けて青になつても右左」を参加者と一緒に

に唱和しました。このあと武田さんは会場に入り、来場者の靴に反射材を着けてあげたり、リ

ーフレットを配ったり、写真撮影に応じたりして、交通安全を呼びかけていました。

会場には「警察車両(パトカー・白バイ・警ら

←参加者の靴に反射材を着けてあげる武田訓佳

さん)と好評だった「おもひこみ免許証作り



用船舶)に乗ってみよう」「巡回車・作業車(高速

道路管理者)に乗ってみよう」「高速道路安全走行クイズ(時速80キロ以下で走行している場合の

一秒間に進む距離)正解は約二二・二メートル)に答えてプレゼント(サランラップ、ティッシュ

など)六品をもらおう「こども免許証をつくってもらおう」などのコーナーが並び、舞台では

女性デュオ「エヴァーラスティング・ウィル」のトークショーとライブも行なわれました。

十一歳女児、五歳男児、三歳男児を連れ、夫と共に岸和田から来た石崎和代さんは「子供は

三人ともパトカーに乗れ、本物感のある免許証も作れて喜んでいます。何より交通安全の勉強

になり、有意義でした」と話していました。

あれこれガイド

●港のついで 「つながろう！ 平和のために！」

守ろう！子ども未来を」集まれは元氣語り
り「元氣」を言葉に港 大正・西区の幼
小・中教職員や地域の人々が交流する毎秋恒例
イベント。四十四回目。メイン舞台では大正区
出身の人気タレント・俳優 山田雅人まさひとさんが今
平和を語る「戦火に散ったプロ野球選手 沢村
栄治」と題して得意の語り芸を披露(山田さんは
現在、NHKラジオ第二「語り」の劇場グッとフ
イフ」で様々な人物を語り、熱い泣き節と好
評。職場・地域団体にやるフリーマーケットや
バザーも。十月十八日(金)十八時～二十時半(メ
イン舞台は十八時五十分)、港区民センターで。
入場無料。主催は大阪市学校教育職員組合港支
部や地域諸団体から成る「港のついで」実行委員
会(☎六五八一・四五四四)。

●交流秋まつり 十一月十日(日) 十～十五時

頃、田中機械(南市国二一六二五)構内で。
労働運動の高揚をめざし、労働者や地域住民が
集う恒例イベント。三十五回目。歌や踊り、争
議支援のバザーや格安の味自慢屋六郎、豪華食品

が当たるビンゴゲームや飛び入りできるカラオ
ケ大会など「写真上下は昨年の模様。入場無料。

主催は全国金属機械労働組合(港合同)港合同も
ちつき実行委員会。共催は特定非営利活動法人
NPOみなど。☎六五八三・四八八八港合同。



●健康まつり 十月二十七日(日) 十～十四時

る磯路中央公園で。区民の健康へのりを目的に
毎秋開催され、二十七回目。健康チェック(血圧・
体脂肪測定など)や舞台発表(体操、踊り、演
奏、歌など)、「写真上下は昨年の様子」バザー
や屋台が一杯。参加協力券(二百円)を貰えば
抽選会に参加できる(抽選券は十二時まで)に抽
選箱へ。主催は大阪きつがわ医療福祉生活協同
組合(港・西エリア)健康まつり実行委員会(磯

路三・三・四、☎六五七一〇六〇六)。

●あゆみ福祉バザー 十一月三日(土・祝) 十

～十五時(雨天なら四日)、あゆみ作業所(築港
三・一〇・一八、天保山公園南向かい)で。同
作業所は主に知的障害者が通所する定員二十人
の指定生活介護事業所。NPO法人大阪港あゆ
み福祉会が運営。「障害のある人たちが住み慣れ
た港区で安心して働き、暮らし、社会参加でき
るサポート施設」として活動。TEL・FAX
六五七一〇七二四。

●ムチ打ち首・腰 無料相談会 交通事故で

ムチ打ち症になった被害者を対象とした無料相
談会。十月二十七日(日) 十～十八時に行政書
士のむら事務所(築港二・七・一・一六〇八)で。
一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。
「どついたら正当な補償が得られるかをアドバ
イスします」「事故後、早めの相談が良い結果に
つながります」(同事務所・野村光恵みつえさん)。E
メール: info@jikkou10-nommu
ra.com、TEL:六五七六・六〇七八、F
AX:六五七六・六〇七九。

盲導犬を贈ろう！

藤かほりさんチャリティ盛況



「目の不自由な人に盲導犬を贈りましょう」と波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月二十九日午後、港区民センターで「チャリティショー」を開きました。藤さんが視覚障害者との交流をきっかけに毎夏、秋に開催している恒例イベントで、十九回目。爽やかな秋風の中を区内外から訪れた大勢のファンが会場を埋め、藤さんの志に熱い声援を送りました。

★会場酔わせた「がほり節」

藤さんは一心流鎖鎌術の演武をバックに、その創始者の生き様を讃えた『男の夢十一代』を披露したのを皮切りに、義のためには命も惜しまぬ男の心意気を歌った『人生一本勝負』、特攻隊基地の青年を題材に平和への願いを込めた『知覧の母・ホタル』、明治男の武骨で不器用な人生を賛美した『無法松の一生』などを熱唱。情も艶も迫力もある「がほり節」で会場を酔わせました。また『北の螢』(森進一)に乗せた踊りの共演や、『無法松の一生』に登場する祇園太鼓の乱れ打ち、さらには「手前、生国と発します所、大阪・港区です。弁天心頭で産湯を使い、姓は藤、名はかほり。人呼んで『ミス弁

天町』と発します」とも乗る「仁義」も披露し、喝采を浴びました。会場には「がんばれ〜」「かほりちゃん」などの声援が飛び交いました。

★日本フイトハウスに寄付金

ショーの中盤に行なわれた寄付金贈呈式では視覚障害者のための総合福祉施設「日本フイトハウス」の橋本照夫専務理事に、藤さんからショーの収益金の目録が手渡されました。回施設で養成された盲導犬ルッシー(メス・八歳)と飼い主である手根山千恵子さんも舞台上上がり、大きな拍手を受けました。

回理事は感謝の挨拶の中で、「盲導犬事業は



→明治男の生き様を讃えた『無法松の一生』など、情も艶も迫力もある「がほり節」を存分に聴かせ、会場を酔わせた藤かほりさん

→盛況だった盲導犬チャリティショー。写真は藤さん(左端)に感謝を述べる日本フイトハウスの橋本専務理事。右手前は盲導犬ルッシー

↑川村正幸さん(右)は男性的な歌唱で「男子不
シツ」なとき、杉後一さん(左)は高音域の美声
で『戦域の女』なときを歌唱し、藤さんが支援



一昨年十一月に四十周年を迎えましたが、藤さん
と港区の皆さんには平成七年から協力して頂
いています。最近では毎年約二十五頭を養成し、
今年三月までに六百十頭を届けるところがで
きました。『報行』行ききたい時に行きたい所へ行
くという当たり前のことを視覚障害者ができる
ように、これから一頭でも多く養成していきたい
と、この区民の一層の支援を期待を寄せました。

藤さんが「毎回幕が開くまでは不安でしたが
ませんが、この沢山の方が来い下るわい」
本堂にやってきましたかと思えます。一頭の盲導
犬が活躍できるのは十年で、十年たつてまた一
頭必要になります。来年はついでに十回目を

となり、一頭目が贈れます。私自身も百歳で紅
白に出られるのが楽しみです。頑張りますので
そままで応援して下さる」と呼びかけました。
会場から割れるような拍手が起りました。

★正司敏江さん爆笑

終盤にはメインゲストの人気漫才師・正司敏
江さん(松竹芸能)が登場。会場に降りて一席に
陣取り、「七十二歳になったけど、若く見える
のは顔も心もかわらないから」「舞台では汗かくか
ら二百田の付け腰毛を三つ書いて使ってる。きれ
いに見えるやろ。近くの女性にお母さんも付
けや」「港区の人の笑い顔がええ。金持ってるか



↑松原美穂さん(上左)は藤かほりさん(上右)と
の踊りなとき、小山穂さん(下右)と広瀬和子
さん(下左)は杖道演武式なとき藤さんを支援

↑港区生まれ育ちの松鶴家祐一さん(上左)は「
一七ア溢れる司会で、集会(下)は力強い和太
鼓演奏で藤かほりさん(下右)の志を応援



らや。近くの社長風の男性に「あなた社長か、
金おくれ」「よけ稼いだけど元夫の故郷(いこ)と
に競艇(ボート)なごみんな使われた。でも好きやっ
たからまた稼いだけど、まだ使われた。それで
七十二にもなって振袖(ハカマ)なんか着て、哀れな敏江
ちゃん。(さつき)と同じ男性に「社長、待ってる
よ」なり」とりこめないネタを次から次へと繰
り出して大笑いを誘いました。

★杉後一さん、川村正幸さん歌唱

他のゲスト出演者も「少しでもお役に立てれ
ば」と藤さんの志に共鳴し、熱演を繰り広げま
した。このついでに四回目の出演で、高知卓(たけ)身

八幡屋在住の演歌歌手・杉俊一さん（キングレコード）は、定評ある高音域の美声で名曲『都城の女』や『夜明け前』（大川栄策）『嵯峨野情話』（本人作詞）など、同じく四度目の出演で、藤さんと同じく安藤美親門下の川村正幸さんは、北海道知床の現役漁師らしい豪快な歌いぶりで新曲『友よ…ありがとじ』や『男オホーソク』などを、それぞれ熱唱しました。

★杖道演武や和太鼓演奏も

ニエホ『純い愛』などに出演した女優・松原美穂さんは藤さんとの共演で『北の螢』を舞い、藤さんが美しき会場を魅了、歌手としては新曲『なおおいてもげ』で男心を刺激しました。また藤さんが代表を務める「神道夢想流杖道弁天道場」の道場生である小山悟さんと広瀬和子さんは、藤さんの歌のバックアップで鎖鎌術や杖道を披露し、藤さんの活動のいま一つの柱である「杖道講習区」に貢献しました。

やはり「港区の天童チャリティ」で藤田記江さんと磯路在住は洗利した太鼓ソロで藤さんの歌を叩き立て、和太鼓集団「華会」はオーブリングでの腹響き流の演奏で会場を圧倒。

←元夫婦ネタなどで大爆笑を誘った正司敏江さんと、太鼓のソロ演奏で藤さんを応援した「港区の天童チャリティ」で藤田記江さん



港区出身（波除小・市岡中卒）で人気漫才コンビ「だま・ひびき」なまじを弟子に持つバタラン芸人・松鶴家祐一さんは気配りとユーモア溢れる司会でショー全体を盛り上げ続けました。

★会場全体が温かい参加者

会場の中央付近で盛んに拍手を送っていた六十年代女性（田中在住）は終演後、二回目の参加です。十九年ものチャリティ継続は中途半端な気持ちではできません。そんな藤さんの温かさがか会場全体に感じられ、こちらも元気で温もりをもらいました。藤さんの歌やゲストの方の熱

演にはもちろん心打たれましたが、特に敏江さんの漫才は最高でした」と話していました。

また、舞台で演武を披露した小山悟さんは「十九回にもなりますが、その中で新しい演目が変わり、ますます温かく充実してきているのを感じます。今回、藤さんの活動のもつ一つの柱である杖道のPRに貢献でき、嬉しく思っています」と話していました。

また、寄付金贈呈式で舞台に上がった盲人の宇根山千恵子さんは「三十八歳で緑内障から全盲になりましたが、一二年して盲導犬を提供して頂き、とても楽になりました。このルシーは三頭目で、もつ六年半になり、三年前には飛行機と一緒に北海道へ行きました。この催しはとても楽しい上、目の不自由な人に盲導犬を贈って頂くという事で、本当にありがたく思っています」と話していました。



十九年も続くロングラン・チャリティですが、「世のため人のため」の想いが舞台にも客席にも溢れ、その繰り返しの中からまた新たな感動・感激が湧き上がったイベントでした。

爆笑！「ミステリー」喜劇

「子どもお笑い塾」が成果発表



「子どもお笑い塾」が夏休み特訓の成果を披露し、大受けした推理喜劇『トイレのミナトさた』の9月1日、弁天町市民学習センターで

強烈ギャグやズッコケの連発に吉本新喜劇も真つ青し。夏休みの「お笑い特訓」を受けた子供たちが9月1日、「廃校」をテーマにした「ミステリー」喜劇を演じ、会場の弁天町市民学習センター講堂を爆笑で包みました。

大阪市出身の放送作家・砂川一茂さん(五二)が「人を笑わせ、自分も元気に」喜劇はチームワークと「コミュニケーションやで」と「夏休み子どもOHー笑い塾」を開講。小・中学生ら三十五人を数回の稽古で集中的に「鍛え上げた」成果を披露したものだ。

★「廃校」テーマにお化けも登場

上演されたのは、港区の架空の小学校を舞台にした『トイレのミナトさた』。

——小規模なため廃校が予定されている「弁天みなと小学校」では、夜になると「トイレのミナトさた」という幽霊が出るとの噂が広がっていた。夏休み、その真相を確かめるため子供たちが夜の学校を探検する。一方その学校をカジノにしようかと企む大人たちがいた。さて探検の夜、果たして幽霊は…現われた！ドッキリにノンケンシユタインにカップに

←吉本顔負けのズッコケもふんだんに登場



傘お化けー等々。その個性豊かなこと。実はこのお化けたち、学校の行く末を心配して立ち上がったのだった。そして子供たちと仲良しになり、相談のうえ決行したのは、悪い大人たちへの懲らしめ。夜の学校で打ち合わせする彼らを追いかけてまわし、取り囲み、「学校をつぶすな」「カジノを造るな」。たまたま「学校はつぶしません」「カジノなんか造りません」と大人たち。周りにはいつの間に入れ替わった子供たちが喜びのパフォーマンス。それでも結局は校長の「辛い決断」によって廃校となるが、壊さずに図書館として使われることになった。「卒業してもまたここで会えるー」「弁天みなと小学校は永遠に不滅やー」。納得した子供たちの歡喜の歌と踊りは果てしなく続くのだった。

怪談仕立てのストーリーにナンセンスギャグや集団スッコケなご笑いの要素をふんだんに盛り込んだミニブリー喜劇。そこから歴校の是非への問いかけやカジノ誘致への風刺、さらには「子供たちは大人になっても戻れる心の故郷」在校生の建物Ⅱが必要なんや」という温かなメッセージも読み取ることができました。

◆緊張したけど楽しかった

終演後、出演者に感想を訊きました。変身お化け「りりり」役だった女児（鶴見区の茨田南小学校五年生）は「最初は緊張しましたが、だんだん慣れてきました。振り付けはきょう自分でできました。砂川先生は優しくだったので楽しく練習できました。また出たいです」。

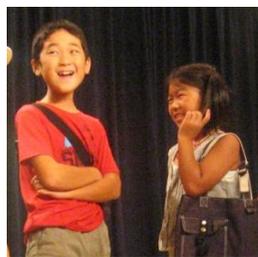
その父親は「娘は「アノの先生悪い大人」ロンちゃんに役で出演に勧められたの初出演でした。恥ずかしがり屋ですが、良く頑張りの、少ない台詞でもしっかり演じていたと思います。ストーリーも良かったです」話していました。

◆楽しく練習できました

また、子供「山崎へん」役だった山崎智松（松谷小学校四年生）は「最初はおそろひが一杯

←港区の出演者も活躍。写真上の左は鎌田泰輔

君（弁天小4年）、同右は山崎智松さん（三先小4年）、写真下の右は山崎利枝さん（三先



いたので緊張しましたが、だんだん楽しくなりました。練習では台詞を覚えるのがしんどかったです。先生が優しく、「アノのが特に面白かったです。また出たいです」。

その母親で、悪い大人「ホクロ」役だった利枝さんは「下の子二人がまだ小さくて手がかり、この子で過す時間が少なかったので、少しでもふれ合える時間を勝手に申し込みましたが、一緒の時間を過ごしながら一つの劇を作っていくのが、良かったです。私自身は台詞の順番を覚えるのが大変でしたが、自分を捨てる役「徹」のよほど口頭のストリートを発散したのもありました。山崎は初出演で緊張してましたが、

出来は私も娘も百五十点。機会があればまた出たいと思います」と話していました。

◆放送作家になりたい

また、子供「カマチャム」役だった鎌田泰輔君（弁天小学校四年生）は「去年十一月のクリスマス喜劇に続いて二回目です。練習では砂川先生が優しく、しんどいところは全部ありませんでした。その中で友だちができて、笑いや、笑い合えたことは、夏休みの素晴らしい思い出です。いいアドリブを考えた時は特に嬉しかったです。将来は砂川先生のような放送作家になりたいと思っています」と話していました。

◆子供たちの自主性を生かした

脚本・演出を担当した砂川さんは「今回はいくつも喜劇始まって以来の多数の参加があり、わずか数回の稽古もあっという間に終わっていました。いつもながらのアドリブ重視のノウハウな脚本で、子供たちの自主性を最大限に重視しました」と話していました。

なお、十月一日（日）には「お笑い塾」四期目の開講が予定されています。問い合わせは0657770114（三〇回センター）へ。

被災地復興を願って

天満宮で観月会、多彩な演目



→東日本大震災被災地復興への願いを込めて催された「観月会」は9月28日夜、三先の天満宮で「音真は最後を飾った」大祓詞（同養上）

「東日本大震災被災地の復興と地域の幸福を」と九月二十八日、三先の天満宮で「観月会」(例年は「雅楽鑑賞会」が開かれました。同神社の主催で四回目。地元住民ら数十人が参加、神話影絵や仏教音楽など多彩な演目を楽しみました。

◆氏子の心の洗濯の場

午後七時、とこぴりと日暮れた初秋の境内の爽やかな夜気の中、天満宮奉賛会の烏尾副会長が挨拶に立ち、「日ごろ神様に奉仕している地域の方たちへの労いの場、心の洗濯の場として催しました。大いに楽しみ、氏子の喜びを神様に伝えましよう」と呼びかけました。

◆青年神職が『ヤマトオロチ』

特設舞台へ最初に登場したのは神話影絵『ヤマトオロチ』。頭と尾が八つもある大蛇が老婦の七人の娘を一年に一人ずつ呑んでいたが八人目に素戔嗚尊が現われ、強い酒を大蛇に飲ませて退治し、助けた娘と結婚し、末永く幸せに暮らした—というストーリー。大阪府下の満四十歳未満の青年神職から成る大阪府神道青年会・演劇同好会のメンバーが美しい影絵と分かりやすい台詞で演じました。

←大阪府神道青年会による影絵『ヤマトオロチ』(C)CHECK DOOR (D)SLAYN



上演後、メンバー代表は「二二百年前から語り継がれてきた神話ですが、戦後はあまり知られなくなりました。暗くさびさびした世相に足りない物を見つけてほしい、日本古来の太らかな感性に少しでも触れてほしい」と思いで上演を続けています」と活動姿勢を語りました。

◆被災地支援続ける大阪府神道青年会

このあと村岡康生(むらおかやすひこ)氏が挨拶に立ち、東日本大震災の被災地である南相馬市での大阪府神道青年会の支援活動のスライドを上映しながら、「地域の拠り所となっていた神社が流失する中、祭りの賑わいが戻るといい」と本殿再建などの支援を続けていますが、神社には義援金などが

屈せていく現実があります」と実情を報告し、参加者の協力を呼びかけました。

◆テュオのライブや日本唱歌も

続いて男女テュオ「OHEEK DOLL」が登壇し、「大丈夫」「お帰り」「あなたへ」など自作五曲を披露。温もりのある前向きな歌詞、美しい旋律、迫力あるヴォーカル、息の合ったハモニーが会場の手拍子を誘いました。トークでは「目の前の人を笑顔にしたい」と2010年結成以来の姿勢をアピール。被災地での活動にも触れながら、会場の協力を呼びかけました。「このあと音楽家・荻山三佐さんがピアノ・岡田美貴さんのエレクトーン伴奏で『落葉松』と『なるめいの田舎』(日本唱歌のメドレー)を披露。美しい高音を生かした格調高い歌唱が会場の唱和と響き合っていました。

◆僧侶が朗々と『声明』

続いて和宗総本山四天王寺僧侶・荻山教生さんが登壇し、『声明』を披露しました。声明とは仏教の経文を朗唱する音楽のことで、インドに起源し、中国を経て日本に伝来し、その曲節は浄瑠璃・浪花節・民謡などに大きな

↑唱歌を歌う音楽家・荻山三佐さんとテュオ声明を演じる四天王寺僧侶・荻山教生さん



影響を与えました。「この日はその中から、①大に願いを求める『諸天漢語讚』②お花畑に舞い降りた仏様に四つの願いを聞いてもらおう『四華請』③水・花・米など六つのお供えをする『ことゝ忍耐・善行・知恵など六つの徳を得よう』と願う『六種回向』の三曲を、解説を加えながら透き通った伸びやかな声で詠い上げました。

朗唱後には、東日本大震災の被災地で被災者から感謝された経験に触れ、「これから被災地の復興を願う、犠牲者を供養していききたい。因果応報の気持ちでみんなが幸せになれますように」と語りかけました。

◆『大祓詞』をみんな養上

最後に村岡宮司が登壇し、『大祓詞(合同奏)』を行ないました。「大祓詞」とは祝詞(神事の際に神前で読み上げられる文章)の一種で、心身の穢れや災回の原因となる罪・過ちを祓い清めるために奏上されるもの。宮司はこのことを説明した上で、冒頭の「高天原に神留り坐す皇親神滿尊」から末尾の「百万神等共に聞こし食せと曰す」までを朗々と読み上げ、文章を手而起立した参加者も声を合せました。

奏上後、宮司は参加者「この催しが四回も続いているのは地域の皆様の神様への崇敬の表われ。神職仲間も日本を少しでも良くしていこう」との催しを支えてくれていきます。今後もお互い感謝の気持ちで生活し、その思いが被災地へも届きますように」と呼びかけました。

◆「神さんにも仏さんにも同じ」

最後まで熱心に鑑賞していた八十代と七十代の夫婦(三先在住)は「色々な催しを楽しませてくれましたが、そのことを通じて、日本では神様も仏様も元は一つであり、私たちの幸せを願う気持ちも同じだ」といふ言葉を改めて感じるようになった」と語りこめてくれた。

義理と人情に酔う

築港高野山「浪曲まつり」活況



夏の夜空の下、義理と人情の世界が境内に広がりました。八月二十日夜、恒例の「浪曲まつり」が築港二丁目の築港高野山釈迦院で催され、雨模様様の天候をうけて訪れた多くの人々が浪曲や河内音頭を通じて交流しました。同院の主権で五十九回目。参加費は無料。

◆港区は近代浪曲の地だった

港区はかつて港邊河役労働者の心の癒として近代浪曲の興行が盛んに行なわれ、戦前の「築港高野山」は浪曲のルーツとして知られる藤原澄憲の碑がありました。戦災で本堂と共に碑も焼失してしまいましたが、一九五二（昭和二十七）年に現在地へ本堂が再建され、一九五四（昭和二十九）年には浪曲親友協会により境内に浪曲塔が再建・建立されました。そして、その年の八月三十日に浪曲塔の慰霊と地域振興と港邊河役労働者の慰労を兼ねて「浪曲まつり」が開催され、以後、毎年この時節に回を重ねながら、日本伝統の語り言を後世へ継承する場、浪曲ファンのお楽しみ場、市民と浪曲師との交流の場として親しまれてきました。

→雨模様様の空をうけて多数が来場し、義理と人情の世界に浸った伝統の「浪曲まつり」＝8月30日、築港二丁目の築港高野山釈迦院へ

←発明王・豊田佐吉の少年時代を語る天中軒涼月さん（右側は曲師の沢村さへらさん）

『風雲赤城山』を熱演する貴山誠太郎さん



◆トヨタ創始者の少年時代

この日は午後八時に開会。雨がぱらぱらと、関西浪曲界の大御所・京山幸枝若さんがあいさつに立ち、参加者への感謝と共にプログラムを紹介しました。

第一部、浪曲の部の最初に登壇したのは女性浪曲師・天中軒涼月さん。外題（演目）は「世界のトヨタの創始者で近代日本の発明王といわれる豊田佐吉の少年時代の物語」。苦心惨憺の末に自動織機を発明するまでを、大工を継がせたいと父親の確執や、勉強の場を「つらい供へくれた母の情愛を絡め」テンポよく

演。最後に父が二世の為、人の為、男一生命をかけて貫き通せよう」と励ます場面では一際大きな拍手が起りました。艶と張りのある発声、豊かな表情、曲師・沢村さくくさんの抑揚あふれる三味線と舌の手が感動を一層深めました。

◆名調子「風雲赤城山」

続いて登場したのは眞山誠太郎さん。外題は「風雲赤城山」。主人公は江戸後期の侠客・国定忠治。役人の包囲から自分を助けくれた恩人を誤って部下に殺めさせてしまった悔恨に苛まれるうち、再び御用提灯に包まれ「赤城の山も音限りの可愛い子分の手前たちも別れ別れになる音途だ」「親分！」「親分！」



華やかに河内音頭を歌う春野富美代さん(左)と力強い江州音頭を披露する天光軒満月さん(右)

師弟が水盃を汲み交わす場面では感興が頂点に達し、盛大な拍手が起りました。力強い語り口、切れのある身振り、喜怒哀楽の表情の鮮やかな使い分けが、男世界の義理人情、ヤクザ渡世の哀しさを一層際立たせていました。

◆河内音頭で一大交流

第一部は音頭の部。春野富美代さん、天光軒満月さん、京山幸太郎さんが次々と登場し、眞山会社中と親友会社中のお隣りで、河内音頭や江州音頭を高らかに熱唱。来場者は「待っていました」とばかりに席を飛び出し、自然的に幾重もの踊りの輪を形成、会場は浪曲ファンや音頭愛好者の一大交流の場と化しました。雨模様の下、じつ果てるかもしれない熱気が夏の夜の境内に溢れています。

◆涙の語り語の世界

河内音頭の輪に入っていた魚川芳治さん(六九八幡屋)は十代からリジオやレコードなどで浪曲に親しんできたという根っからのファン。この催しには毎回参加し、数年前からは間口ビル(港区海岸通)で始まった浪曲祭(有栖)にも通っていました。「浪曲は義理・人情や忠節・

「江州音頭なをリードする京山幸太郎さん(左)と、雨をうけて境内で踊り出す参加者(右)」



孝行の世界を情感豊かに表現する素晴らしい日本の語り言葉。物語の中に入り込め、さわりの部分では涙が出ます。最近では音の広沢虎造の時代とはやや芝風が変わってきましたが、基本は同じ。新しいものも採り入れながら、これからも続いてほしいと語ります。

また妻の三鈴さん(六三)は夫の影響で昨年、間口ビルで浪曲を聴き、感動したのでこの日も参加したということでした。「語られるのは昔の話ですが、今は失われつつある義理や人情の世界が目に見えようという思いで、心を打ちます。この催しは無料でこんなに楽しめ、値打ちがあります。来年も来たいですよ」と語っていました。

平和のため

戦争体験

語り継ごう

今月の語り部

猪伏昌二さん(元田中佳民) ⑥



生まれで 昭和四(一九五五年、北朝鮮の元

山に生れた私は、中国大陸での戦火を背景に、

満州(中国東北部)東部の町・図們、次いで

延吉で育った。対米英戦が始まり、戦争一色

の中学校生活を送った。昭和二十年八月、突如

のソ連参戦に緊張が走る中で敗戦。日本人街は

廢墟と化した。小学校での避難生活はソ連軍に

よる女性凌辱(ハラスメント)を極めた。生きていく

ため行商など何でもやった。その中で遭遇した

満蒙(マンモウ)開拓青年義勇軍の悲劇は同世代として

胸張り裂ける思いだった。厳寒の候、預かった

彼らが持ち込んだ発疹チフス(チフス)で母を除く家

族全員が倒れた。師走の夜、隣に寝ていた父が

「もう駄目かも知らん」と声をかけた。本文は

回想録『平和の空より永遠』から抜粋・再構成

父を失い家族が肩に

豆腐売り、鉄工所、風呂屋…

父は言いました。「猪伏家を継ぐのはお前しか

おらん。」「手まで来て戦争に負けて、敗者の姿

で日本に帰るなんて堪えられないものではない。

わしの無念を晴らしてくれんなか。」「そして苦しい

息遣いの中から、「成せば成る、成らねば成ら

ぬ、何いしても、成さぬは成が成さぬ成りけり」

「鶏口となるをも牛後(ウシゴ)となる勿れ」の言葉を絞

り出すように発しました。「こちらも聞き逃すま

いと必死でした。母も枕元で聴いていましたが、

妹らは高熱で寝たままなので、「この父の最後の

言葉を聴くにははさませなりました。その夜は

氷点下二十度を下回るこの冬一番の冷え込みで、

延吉(エンキョウ)全体でも亡くなった人が突出して多かつた

ところです。寒冷前線が延吉の夜営を通り魔の如

く駆け抜けたように思われました。

◆やるせなかつた永遠の別れ

夜が明けるや大騒ぎになりました。隣の宮浦

君のお母さん、それに別の部屋的主人も亡くな

っており、一つ屋根の下の三家族が一夜のうち

にそれぞれ一人ずつを亡くしていたのです。す

ぐさま近隣の邦人が駆けつけてくれましたが、

我が家ではこの突然の事態に母だけでは対応で

きず、同郷(トウキョウ)の人たちが見えて、色々

と手伝ってくれました。遺体は田舎から送られ

た酒樽(サカヅケ)の「コ」で包み、日本人墓地に運んでま

いました。その間、私や妹たちは、なお四〇度

の熱に悩まされて、父の死顔を見ることもでき

ず、野辺送りには母だけが山へ入っていく行きま

た。何ともやるせない永遠の別れでした。

◆中国人街で「豆腐」「風呂」

ともあれ発疹チフスは高熱を十日ほど乗り越えれば快方に向かうとされ、私も熱が峠を越すと、徐々に体力が回復してきました。そして父亡きあと、じじやって生き抜くか、二世二代の闘いが始まったのです。年が明けて昭和二十一年（一九四〇）年正月のことでした。

中国人街の北の方に、驢馬に臼を引かせて豆腐を造る所がありました。手取り早く現金収入が得られる商売というので、まずはそれを売ってみることにしました。軍隊の乾パンを保存するブリキ缶を手に入れ、外側を断熱のため板で囲い、蓋を付け、それを拍いで夜明け前の暗い道を製造所へ向かいました。

一月中旬の寒い盛りでしたが、五人ほどが順番待ちしていました。三十丁ほど受け取ってお金を払い、外へ出て、肩に担いだケースから湯気が立ちのぼります。歩くとケースの中の豆腐が湯と一緒に揺れるため、腰をぶらぶらさせながらバリンスをこります。「さあこれからだー」とお盆入れ、中国人街に入りました。「豆腐」「豆腐」。静けさを破って売り声が通ります。朝の冷気は体の芯まで握えますが、豆

←父亡き後、中国人街で豆腐を売り歩いた。初めて声がかかった時は嬉しそうに泣きたいほどだった（写真は戦前の満州の中国人街）



そうして始めた豆腐売りでしたが、毎日が時間との勝負でした。歩き回るほどに水は冷えてきます。手はかじかみ、しまいに感覚がなくなり、一時間もすると氷が張りかけます。そして最後はいつも中学時代の寺田校長の家に寄って無理を言っただけでした。が、それも毎口という訳にはいかず、そんな時は餓色の高野豆腐に仕上がったのを家に持って帰り、干すしかありませんでした。

さすがに食べ物商売の難しさを感じ知らされました。それでも毎日同じ時間にきつちり声を出して売っていれば信用もできていくのが分かりました。しかし収入面の不安定さはどうしようもなく、豆腐売りを続けながら、「大人数の生活を賄える、もっと確かな仕事はないか」と探し回るようになりました。ちょうどその頃、預かっていた義勇隊員一人は、それぞれ身の振り方が決まったのか、我が家を出て行きました。

◆ハンマーで鉄たたく

そうこうしているうちに、ある鉄工所から声がかかりました。経営者は金持という朝鮮人で、日本の工業学校を出たエンジニア。連軍の自

腐が凍ってしまったのは売り物になりません。「早く売れて欲しい」と気が焦ります。やがて一軒の戸が開き、「先輩、来い」と声をかけてくれた時は、嬉しそうに泣きたいほどでした。

◆食べ物商売の厳しさと美感

動車の修理から旋盤、溶接、鍛冶など鉄工全般に回る仕事を手がけていました。「渡りに舟」はかりに、わしを勤めなすじなました。

が、与えられたのは、真つ赤に焼けた鉄を大ハンマーで叩く作業。へっぴりの腰の動作に「お前には回かた」とあつた。剣道で鍛えた腕っぴには自信があつたのですが、竹刀と鉄とではまるまの感触が違い、第一、腹一杯食へていないのが出る訳もありませんでした。

◆電気溶接も教ひる

回されたのは電気溶接機を製作する部署でした。どこから外してきたのが、電信柱の上に取っ付けてあつた変圧器をその解体し、中のコイルを取り出し、絶縁した太く平たい銅線の上に巻くだけだつて完成をさせていました。頭の良い人もいるものだと思ひました。

また溶接そのものも一から教えてもらつていました。ガスと電気との二つの方法があり、電気溶接は、溶接棒をプラスの鉄の棒一枚の金属の隙間に近づけて火花を生かせながら溶かしてついで、溶接棒を引いていきます。便利な道具がめづりなもので、いざとなつても感心しました。

←家族を支えるためどんな仕事にも就いた写

真下は戦前の満州の戦台屋、トは風呂屋



そのつちの連軍の十輪トラックの荷台の亀裂を修理する大きな仕事が入りましたが、こちらは未熟なので、その作業にはなかなか加えてもらえませんでした。が、一度やらせてもらった時、「そんな重くそみたくななり方では接着しない」と叱られたのを思ひ出します。

◆風呂屋の三助

そのつち溶接と共に、雑用や掃除など追つて回されていた時、金社長から「うちが経営している風呂屋の三助をやつてくれなにか」と持ちかけられました。「これにもすべに思ひ、そのつちの手伝いをやるつもりになりました。風呂屋は朝鮮市場の前で、いざとなつても日本人もたよりに

ちよい来ていたようですが、裏方の仕事なので、ほんまにうまいのはありませんでした。

湯は、それまで石炭で沸かしていた罐は使わずに、二フロム線をコイル状に巻いて電熱機を製作し、それをボイラータンクに入れてスイッチを入れれば簡単に沸きました。温度計で湯温を測り、客が増えて湯が減れば、ヒューガルポンプを回して給湯し、常に正常な湯量と湯温を維持すればよかつたのです。合理的な発想と仕組みに驚きました。その上、私は四畳半のオンドル部屋に泊まり込み。いい仕事に巡り回ると感謝したものです。それでも営業時間が終わつてからの、浴槽や洗い場や脱衣場の掃除は、春になるとあまり寒さは感じなくなつたものの、けつこ辛くもでした。

◆母と日本人墓地へ

三月に入つたある日、母が「お父さんの遺体が気になる、一度日本人墓地へ行つてみてほしい」と誘いました。「一緒に山へ向かう、それと田舎のは、影の遺骸です。その遺骸な光景は、六十八年後の今も田舎焼か行つて離れませぬ。

ミニ文化案内

●交通科学博物館さよなら企画展 Part 1

「収藏品」レクシオン「曝涼展」 「曝涼」とは、

中干しを兼ねて物品を点検するを共に、蔵の中身を公開すること。一九六二(昭和三十七)年の開館以来、収集・保存してきた多種多様な収蔵料を、初展示も多く交えて紹介。主な展示品は、駅名標「湊町」(初)、新幹線方向幕(初)、電柱番号票(初)、乗車券輸送箱、昭和二十八年北陸線臨時輸送ダイヤ(初)など。十一月十五日まで開催中▽他に「蔵出しヘッドマーク展」(時代の節目や記念行事の際に列車の先頭に取り付けられるメモリアルなヘッドマークを収蔵



↑「収藏品」レクシオン「曝涼展」のイメージ

↑「蔵出しヘッドマーク展」会場風景①「鉄道

友の会阪神支部フリスティック部会写真展」から「京阪8000系30番台(旧3000系)



品から約二十点展示。十一月二十四日まで開催

中「鉄道友の会阪神支部フリスティック部会写真

展」(同会による「関西の鉄道をテーマにした約

八十点展示。十一月 日まで開催中) 11/15 〇

系新幹線運転会(十月 日、二十七日

⑩の十時半〜十一時と十二〜十六時に屋外展示

場で「バハマ運転」(平日三回、土日祝日五

回)などの催しも▽十七時入館、日曜休館

(祝日なら開館し翌又曜日、火曜も祝日なら振

替休なし)。高校生以上四百円、四歳〜中学生百

円。JR弁天町駅すぐ。 ☎0581-557711。

●港図書館 ①秋のおはなし会＝小学生が楽し

める話を「かたりの会さざなみ」が。第十八回

図書館フェスティバルの一環。十一月十八日

(十)十一〜十二時に港区民センター階会議

室「椿」で。定員二十名。申込不要。家族つ

れOK②大阪新美術館建設準備室連続アート講

座「アートな大阪大発見」の第四回「変わりゆ

く風景と風景画」＝芸術の秋に美術の話を。第

十八回図書館フェスティバルの一環。十一月十

七日(日)十時半〜十一時に港区民センター二

階会議室「松竹」で。講師は清原佐知子さん

(大阪新美術館建設準備室主任)。定員五十名

申込不要③図書展示「体を動かしてみませんか

の本」展＝十月三十一日まで開催中。自宅でも

できる簡単な体操から、近くの公園でもできるフ

ーキングやストレッチなどの軽い体操まで、自

分の体に合う様々な運動を知ってもらうための

本を一堂に④あかちゃんのおたのしみ会＝毎月

第一金曜日(十一月は一日)の十一時〜十一時

半、じゅつたんコーナーで。赤ちゃんと保護者

を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。

申込不要⑤おたのしみ会＝毎週水曜十五時半〜

十六時、じゅつたんコーナーで。幼児を対象に、

絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要▽いずれも問い合わせは ☎六五七六・一三四六港図書館へ。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホールシリーズ」第3回 「ロシアン・センチメンタル」と題し、ロシアの大地の薫り溢れる憂愁のプログラムを。開幕はグリーンカンの歌劇「ルスランとリムドミリン」序曲。同フィル音楽監督オーギユスタン・デュメイさんの快活なタクトが生命力豊かな躍動感を生み出す。続いて、土臭いグ



→指揮を担うのは関西フィル音楽監督のオーギユスタン・デュメイさん◎(©Thibaut

It Daegunard)と、ヴァイオリン独奏

を担うのはエスエル・ユースさん◎(©Mar

coBorrower/e)

ラズノフのヴァイオリン協奏曲「短調作品82」。

ヨーロッパでデュメイさんに学ぶ若き才能 エスエル・ユースさんの圧倒的なヴァイオリン独奏に注目。最後は壮大なチャイコフスキーの交響曲第五番「短調作品64」。デュメイさんの天才的なアプローチが作品の新たな側面を映し出す。

十一月十六日(土)十五時からいずみホール(ＪＲ環状線 大阪城公園駅)歩三分、同「京橋駅」南口歩八分、地下鉄「OBP駅」歩五分で。S席五千円、A席三千五百円(全席指定・消費税込)。無料託児サービスあり(申込締切十一月一日、先着二十名)。☎六五七七・一三八一。

●井大町市民学習センター「こぼんのつたここのつた」

次世代へ歌い継ぎたい日本の歌を、本格的なオヘア歌手の歌声と共に、背景やエピソードを学びながら楽しむレクチュアコンサート「シリーズ」の四回目。今回は情緒に富んだ「故郷のつた」、異郷のつた〜日本列島つたの旅をたどるつた。出演はソプラノ：小椋史絵さん、バリトン：橋 茂さん、ピアノ：金岡優子さん。

企画・構成・司会は大田道宏さん(関西フィルチエロ奏者)。曲目は「故郷」「この道」「荒城の

月「夏の思い出」「砂山」月の沙漠(他)。十一月

十三日(水)十九時から同センター講堂。料金は一般千五百円(前売千二百円)、小・中学生八百円。定員百二十名(先着順)▽申込方法など詳細は同センター(☎六五七七・一四二〇)へ。

●井大町市民学習センター「芝居で演じる一落語&講談〜どっこい楽〜く奇席〜」受講者募集

伝統の上方芸能である落語と講談を新感覚で体験できる講座。プロの噺家と一緒に楽しく学ぶ。講座・稽古は十月二十九日〜来年三月十八日の毎週火曜日十九〜二十一時(十一月十九日、十一月十七日、三十一日、一月十二日を除く)。三月二十日(土)に最終リハーサル、同日(日)十四時から舞台発表▽申込方法など詳細は同センター(☎六五七七・一四二〇)へ。

●井大町市民学習センター「井大喜劇〜笑天下」受講者募集

元お笑い芸人・現喜劇役者の田島慎司さんが「笑いで大阪を元気に」と笑いを取るコツを伝授。講座・稽古は十一月八日〜来年三月十四日の毎週金曜日十九〜二十一時(十一月十日、十一月十七日、一月二日を除く)。三月十五日(土)に最終リハーサル、同

十八日(日) 十五時から舞台発表▽申込方法など詳細は同センター(☎0577-1420)へ。

●川島恵美子作品展 平和の願いをキャンバス

に込めて絵画人生を送ってきた川島恵美子さん(八二)八幡屋住居が昭和二十八年からほぼ毎年開いてきた個展。五十一回目。リアリズムを基調にした迫力と温かみのある風景描写が特徴。油彩・水彩・スケッチなど。十月十二日(日)～十月二十七日(日)の十一～十八時に画廊&アトリエ「ガリア・リベリア」(三先二一三二)八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐで。入場無料。☎七五〇二一四二八八。



→川島恵美子作品展「が開かれるガリア・リ

ベリア」(三先二一三二)八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋

とガリア・リベリア(油彩・水彩・スケッチ)

●ぎやうりー&かふえ風庵「夢見の灯りたち」

展 秋の長夜に灯りを愉しむ。鍛冶師による一味違つ燭台やランプの展覧会が十月七日から繁栄商店街の「ぎやうりー&かふえ風庵」(南市岡二一〇一〇)で好評開催中。十一月二十日(土)まで(開場は十時～十八時、日曜日定休)。出品したのは石川県の鍛冶師、河上知明さん・真壁さん父子。知明さんは一九五六年生まれ。神話的鍛冶の世界に憧れて鍛冶師になり、二十九歳で独立、アトリエ設立。「ハンマーをふる」時、古今東西の鍛冶師たちと繋がり、火の神様も僕を清め、情熱を吹き込んでくれ、背後



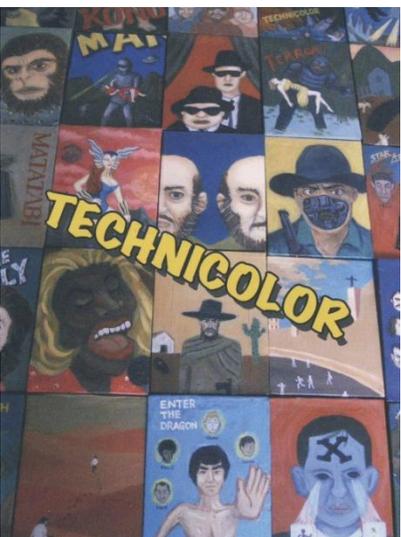
→ぎやうりー&かふえ風庵で開催中の「夢見の

灯りたち」展の作品イメージ

から応援してくれている気がする」知明さんの著作から。風庵では他に藤井オーナー所有の絵画や明治・大正・昭和期制作のレトロ感あふれる陶器・ガラス器・柱時計・レコード盤・ミニンなども常設展示。自家焙煎の珈琲はクッキー付きで三百円。☎四九六五・五九八一。

●ギャラリーはたなか「笹岡茂彦作品展」

「ニカフ」 怪獣映画などの印象的な場面を独特のタッチで表現した絵画を一堂に。十月二十日(日)まで開催中(十八日休み)。十一～十九時(最終日は十七時まで)。磯路二一、五(港区役所向かい)、☎六五七二・五九八七。



→笹岡茂彦さんがギャラリーはたなか「出品

した」ニカフな絵画作品のイメージ